国立情報学研究所

平成18年度 要覧

National Institute of Informatics

2006-2007

NII

Contents

1　はじめに

2　沿革

3　運営会議・アドバイザリーボード・顧問・名誉教授・特任教授

4　特色

6　研究・教育

6 情報学プリンシプル研究系

7 アーキテクチャ科学研究系

8 コンテンツ科学研究系

9 情報社会相関研究系

10 研究施設（センター）、研究連携開発本部、社会産学連携活動推進本部

11 重点プロジェクト

12 各教員の研究テーマ一覧

15 大学院教育

17　最先端学術情報基盤

17 最先端学術情報基盤（CSI）の構築

18 学術情報ネットワーク

20 サイエンスグリッドNAREGIプログラム

22 全国大学共同電子認証基盤（UPKI）の構築

23 次世代学術コンテンツ基盤の整備

24 学術機関リポジトリの連携・支援

25 国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC/JAPAN）

26 目録所在情報サービス

28 GeNii（NII学術コンテンツ・ポータル）

■CiNii（NII論文情報ナビゲータ）、NII-ELS（NII電子図書館）

■Webcat Plus（ウェブキャット・プラス）

■KAKEN（科学研究費成果公開サービス）

■NII-DBR（学術研究データベース・リポジトリ）

■NII電子ジャーナルリポジトリ（NII-REO）、オンライン学術用語集、学協会情報発信サービス

32 教育研修事業

33　研究協力・知的財産

34　国際交流

36　研究成果の普及

37　所員・予算

38　組織

40　大学院学生一覧

41　情報資料センター

42　施設・所在地

はじめに

国立大学等の法人化がスタートして以来、学術研究組織は自らの使命・役割を明確化し、他ではできない特徴ある活動をプラン・実行し、成果を効率的に発信していくことがより明確に求められています。

国立情報学研究所（NII）の使命と特徴的な役割は次の通りです。即ち、我国唯一の情報学の学術総合研究所として情報学という新しい学問分野での「未来価値創成（学術創成）」をすること、また共同利用機関として「情報学活動のナショナルセンター的役割」を果たすこと、更に今や学術コミュニティ全体の研究・教育活動に不可欠な学術情報基盤（学術情報ネットワークやコンテンツ）の事業を展開・発展させること、そしてこれらの活動を通して「人材育成」と「社会・国際貢献」につとめることです。

国立情報学研究所の、これらの使命は今、特に重要な段階に入っています。「ITブームからバブル崩壊の10年」を経て、情報学は人と社会に今までにない実価値を生み出す新しい理論、方法論、応用展開（未来価値）が求められています。また、より幅広い研究・教育や産業の国際競争力の死命を制するものとして、超高速ネットワーク、研究リソース、研究成果としてのソフトウェア/データベースの共有、人材等を有機的に結合する「最先端学術情報基盤（CSI）構築」の重要性への認識が高まっており、現在の我々の学術情報基盤事業をシームレスに次世代につなげていくことが喫緊の課題です。

国立情報学研究所は、より強力で、よりオープンな研究体制をとって、これらの使命に応えるべく最大の努力を行いたいと思っております。
関係各位のますますの御理解・御支援をお願い致します。

平成18年4月

大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構
国立情報学研究所長　坂内　正夫

沿 革

昭和48年(1973年)	10月	文部省　学術審議会第3次答申(学術振興に関する当面の基本的施策)において、基本的政策として、「学術情報の流通体制の改善について」提言
昭和51年(1976年)	5月	東京大学情報図書館学研究センター発足
昭和53年(1978年)	11月	文部大臣から学術審議会に対し「今後における学術情報システムの在り方について」諮問があり、昭和55年(1980年)1月に答申
昭和58年(1983年)	4月	東京大学文献情報センターの設置(情報図書館学研究センターを改組)
昭和61年(1986年)	4月	学術情報センターの設置(東京大学文献情報センターを改組)
平成 9 年(1997年)	3月	国際高等セミナーハウス(長野県軽井沢町)竣工
平成12年(2000年)	2月	学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋)内に移転

平成 9 年(1997年)	12月	文部省、情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議を設置
平成10年(1998年)	1月	学術審議会において「情報学研究の推進方策について」建議、情報研究の中核的な研究機関を大学共同利用機関として設置することを提言
	3月	情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議、報告書を提出
	4月	情報研究の中核的研究機関準備調査室が設置され、5月に委員会が発足
平成11年(1999年)	3月	情報研究の中核的研究機関準備調査委員会、報告を提出
	4月	情報研究の中核的研究機関創設準備室が設置され、5月に準備委員会が発足
	7月	情報研究の中核的研究機関創設準備委員会、中間まとめ提出
平成12年(2000年)	3月	情報研究の中核的研究機関創設準備委員会、報告書提出

平成12年(2000年)	4月	国立情報学研究所の設置(学術情報センターを廃止・転換)
平成14年(2002年)	4月	総合研究大学院大学 情報学専攻の設置
	9月	研究企画推進室の設置
	10月	総合研究大学院大学国際大学院コース(情報学専攻)の設置
平成15年(2003年)	1月	グローバル・リエゾンオフィスの設置
	4月	リサーチグリッド連携研究センターの設置
		国際学術情報流通基盤整備推進室の設置

平成16年(2004年)	4月	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所の設置
平成17年(2005年)	4月	GeNii(NII学術コンテンツ・ポータル)の正式運用開始

運営会議

所長の諮問に応じ国立情報学研究所の運営に関する重要事項の審議を行います。

有川　節夫	九州大学理事	東倉　洋一	国立情報学研究所 副所長
市川　晴久	NTT先端技術総合研究所長	藤山 秋佐夫	国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系研究主幹
高橋　真理子	朝日新聞科学医療部次長	本位田 真一	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系研究主幹
田中　英彦	情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科長	大山 敬三	国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系研究主幹
田中　穂積	中京大学情報科学部認知科学科教授	曽根原 登	国立情報学研究所 情報社会相関研究系研究主幹
所　真理雄	ソニー株式会社特別理事	三浦 謙一	国立情報学研究所 リサーチグリッド研究開発センター長
西尾　章治郎	大阪大学大学院情報科学研究科長・教授	高野 明彦	国立情報学研究所 連想情報学研究開発センター長
羽鳥　光俊	中央大学理工学部教授	山田 茂樹	国立情報学研究所 学術ネットワーク研究開発センター長
村岡　洋一	早稲田大学副総長	安達 淳	国立情報学研究所 開発・事業部長
安岡　善文	東京大学生産技術研究所教授	根岸 正光	総合研究大学院大学大学院複合科学研究科長
（以上五十音順）		速水 謙	総合研究大学院大学大学院複合科学研究科情報学専攻長

21名

アドバイザリーボード

情報学に関する研究並びに学術情報の流通のための基盤の開発及び整備等に関する諸問題について所長の諮問に応じます。

顧　　問（国立情報学研究所）

末松　安晴	前 国立情報学研究所長

1名

名誉教授（学術情報センター）

大野　公男	元 学術情報センター副所長	山田　尚勇	東京大学名誉教授
市川　惇信	東京工業大学名誉教授	井上　　如	元 学術情報センター副所長
西田　龍雄	京都大学名誉教授		

5名

名誉教授（国立情報学研究所）

佐和　隆光	立命館大学政策科学研究科教授	内藤　衛亮	東洋大学社会学部教授
羽鳥　光俊	中央大学理工学部教授	小野　欽司	早稲田大学客員教授
末松　安晴	前 国立情報学研究所長	山本　毅雄	前 国立情報学研究所 情報メディア研究系研究主幹

6名

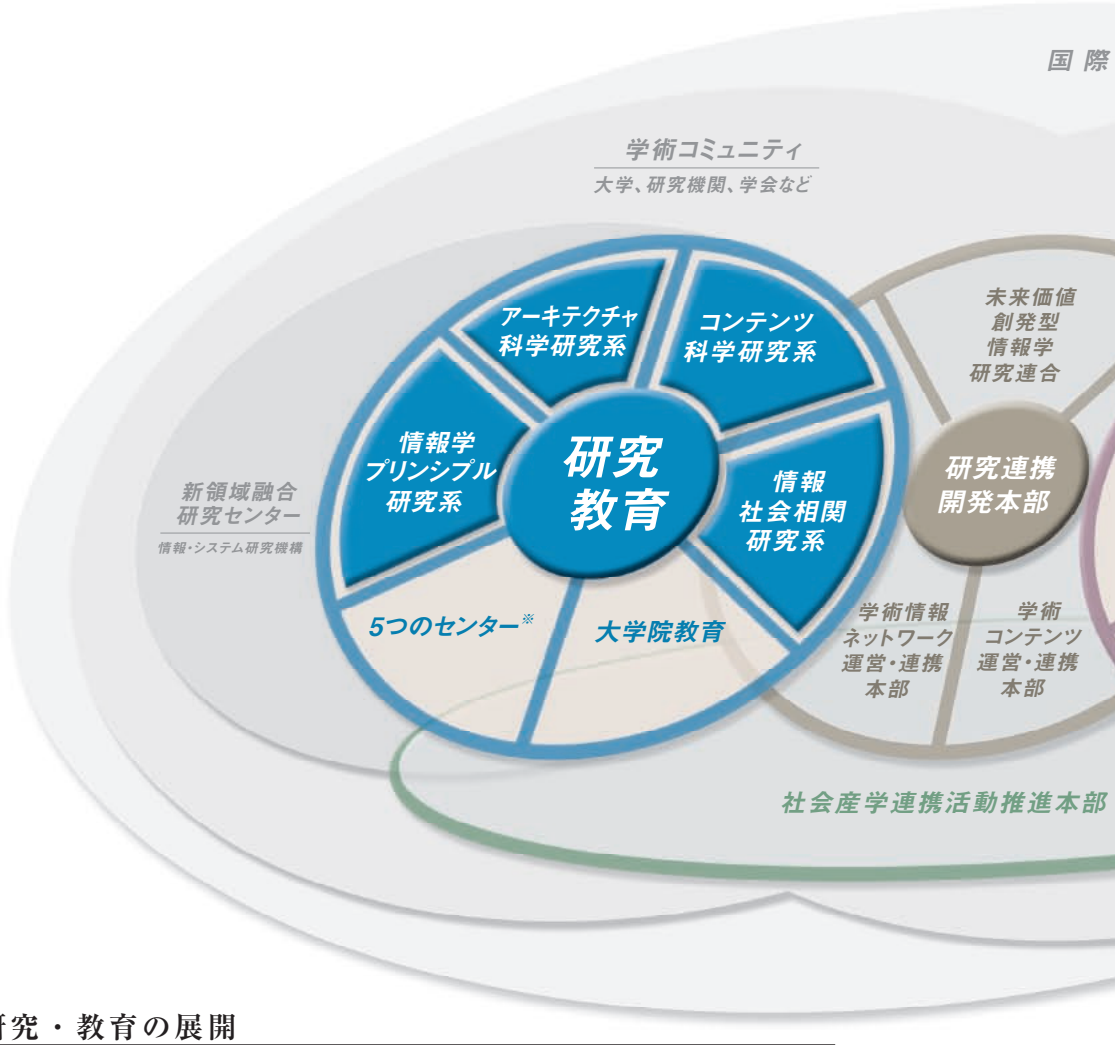
特任教授

小野　欽司	早稲田大学客員教授

1名

研究と事業とを車の両輪として、情報学による

国立情報学研究所は、情報学という新しい学問分野での「未来価値創成」を目指すわが国唯一の学術総合
コンテンツなどの情報関連分野の新しい理論・方法論から応用展開までの研究開発を総合的に推進していま
コミュニティ全体の研究・教育活動に不可欠な最先端学術情報基盤（サイバー・サイエンス・インフラスト
全国の大学や研究機関はもとより民間企業や様々な社会活動との連携・協力を重視した運営を行っています。
れ、平成16年4月から大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構の一員として新しくスタートしました。



情報学の総合的な研究・教育の展開

「情報学」は、計算機科学や情報工学だけでなく、人文・社会科学や生命科学の領域も包含する新しい学問分野です。国立情報学研究所では、4研究系、5研究施設（センター）、研究開発連携本部及び連携研究部門を設置し、未来価値を創成する情報学研究、社会・公共貢献、融合の情報処理、産学官民の連携、国際的な研究・事業活動を指向した情報学研究を進めています。

未来価値創成

自然科学から人文・社会科学にわたる広範な情報学研究の長期的視野に立った推進と体系化による学問形成を目指して、情報学による未来価値（理論・方法論から応用展開）を創成し、情報学の発展に貢献します。

社会・公共貢献

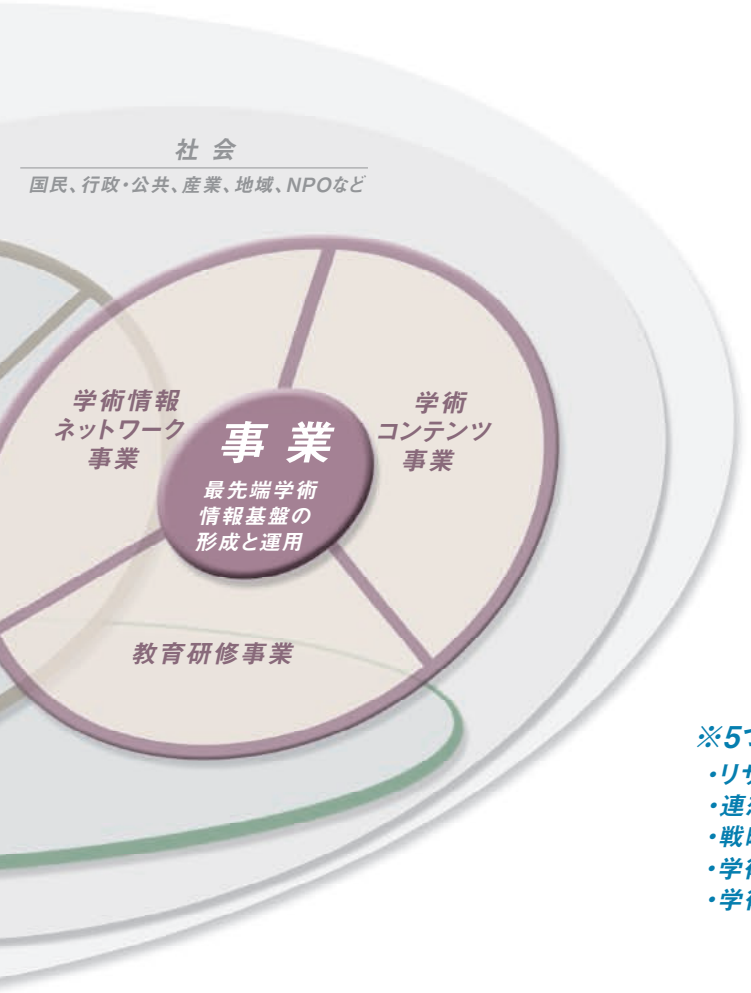
学術・文化・教育・出版・環境および地域・NPOなどの社会・公共活動の発信や活性化のためのコンテンツの形成・検索・利用を効果的に実現するプラットフォームやポータルの形成に加えて、社会、人文、制度の調和形成を進めます。

融合の情報処理

異分野の横断的研究や幅広い学問分野の相互作用による新領域の開拓を進めています。情報・システム研究機構に平成17年4月設立した新領域融合研究センターにおいて、生命・地球システムの解明を目指した分野横断型の融合情報研究を展開しています。

未来価値を創成します

研究所として、ネットワーク、ソフトウェア、
す。また、大学共同利用機関として、学術
ラクチャ：CSI）の構築を進めるとともに、
国立情報学研究所は、平成12年4月に設置さ



※5つのセンター

- リサーチグリッド研究開発センター
- 連想情報学研究開発センター
- 戦略研究プロジェクト創成センター
- 学術ネットワーク研究開発センター
- 学術コンテンツサービス研究開発センター

最先端学術情報基盤を推進する事業

国立情報学研究所では、最先端学術情報基盤（CSI）の形成・運用を推進しています。これらを全国の大学などと連携・協力して企画・運営する学術情報ネットワークと学術コンテンツの2つの運営・連携本部、システムの開発・運用業務を行う開発・事業部、および、研究者の参加や研究成果の導入を促進するセンターを置き、研究組織と一体となって学術コミュニティへの貢献に務めています。

産官学の連携

大学、公的研究機関および民間機関との緊密な連携・協力を図り、プロジェクト型共同研究や人材育成を実施するとともに、地域やNPOなどの「民」との連携を推進し、研究成果の社会における活用を促進しています。

国際活動

諸外国の大学・研究機関との国際交流協定などによる研究者・学術情報交流や国際共同研究を実施して国際情報発信に努めるとともに、国際学術情報流通基盤や国際学術ネットワークの整備などの国際事業を展開しています。

大学院教育・人材育成

総合研究大学院大学複合科学研究科の情報学専攻として、情報学分野の人材の中長期的な質的・量的拡大を目指した研究者・技術者を養成するとともに、産と学をつなぐ技術者の養成拠点を設置し、戦略的人材を育成しています。

情報学プリンシプル研究系

情報学に関する新しい原理、理論などを追求するとともに、新領域の開拓を目指す研究を行っています。

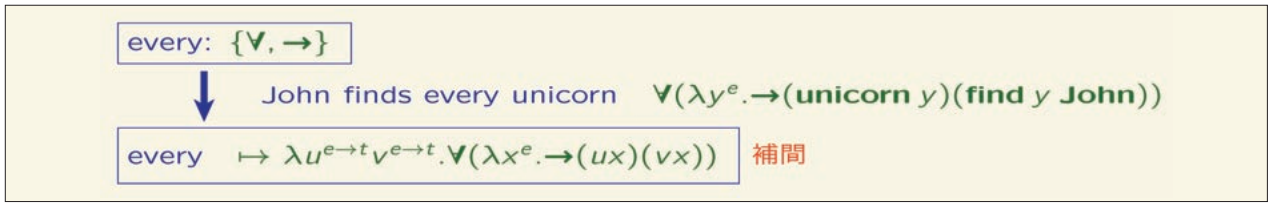
型付きラムダ計算に基づく包括的な文法モデル

抽象的範疇文法(ACG)は型付きラムダ計算に基づく文法フォーマリズムである。ACGを使うと通常の記号列を生成する文法のみならず、木文法やモンタギュー流の合成意味論など、自然言語の記述のために提唱された多種多様なフォーマリズムを統一的に表現することができる。本研究では、INRIA-Lorraineの研究者と共同で、解析、生成、学習に関する理論と効率的なアルゴリズムを備えるという意味で包括的な自然言語のモデルをACGを用いて構築することを目指している。

これまでの研究で、ACGが生成する記号列言語のクラスは代入に関して閉じた完全な抽象的言語族を構成するという点で自然なものであることを示した。現在、直観主義命題論理の含意断片において補間論理式を計算する新しいアルゴリズムと線型高階マッチングの特殊な場合を解くアルゴリズムを使ったACGに対する効率的な学習アルゴリズムの実装に取り組んでいる。

(金沢 誠)

参考文献：Makoto Kanazawa: Abstract families of abstract categorial languages, to appear.
Makoto Kanazawa: Computing interpolants in implicational logics, Annals of Pure and Applied Logic, to appear.

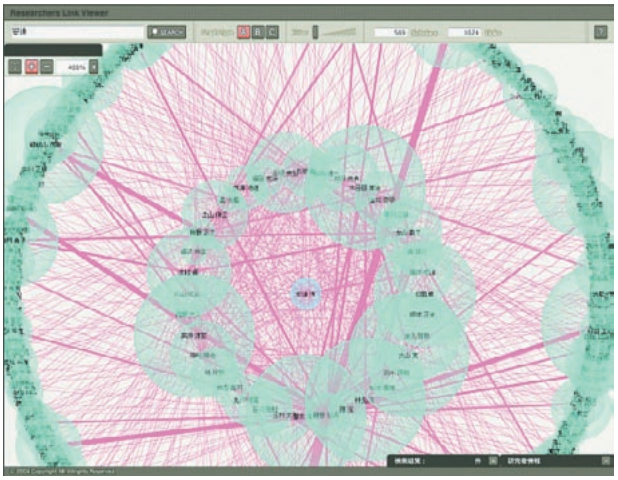


情報同士の意味的関係を用いた知識発見

近年の計算機科学の発展に伴い、さまざまな情報が容易に入手できるようになってきた。このような大量の情報の中から、必要な情報を取捨選択し、意志決定に用いることができるような知識に統合するためには、非常に繁雑な作業が必要となる。そこで、本研究では、情報同士の意味的な関係を解析することにより、人間が使い易い知識を機械が自動的に発見する技術の開発を進めている。具体的には、病院における患者の検査データから、時系列で移り変わる検査値同士の関係を用いて、患者の状態を決定できる知識を発見する手法を開発したり、複数のオントロジー同士の間にどのような意味的な関係があるのかを解析することで、情報共有に使うための知識を発見する手法を開発したり、文献情報から論文間の関係を抽出し、研究者のコミュニティがどこにあるかという知識を発見する研究などを行っている。

(市瀬 龍太郎)

参考文献：Ryutaro Ichise, Hideaki Takeda, Kosuke Ueyama : Community Mining Tool using Bibliography Data, Proceedings of the 9th International Conference on Information Visualization, pp. 953-958, (2005)



コミュニティマイニングシステム

その他の研究

●最小二乗問題および特異な連立一次方程式の反復解法の研究(速水 謙、伊藤 徳史)　●脳磁界逆問題などで生じる連立代数方程式の数値解法(石井 政行、奈良 高明、速水 謙)　●大規模データ処理・大規模最適化を高速に行うアルゴリズムの研究(宇野 毅明)　●離散数学における彩色問題とアルゴリズム面への応用に関する研究(河原林 健一)　●型理論、ラムダ計算、構成的論理の研究、およびそれらを応用したプログラム理論の研究 (龍田 真)　●構成的論理における正規化手続き(プログラム実行)の複雑さの研究(照井 一成)　●量子エンタングルメントを用いたセキュリティ技術の研究(山本 喜久、根本 香絵、Peter van Loock、松本 啓史、小林 弘忠)　●証明可能な安全性をもつ暗号系に関する研究(渡辺 曜大)　●バイオポータルによる統合的科学コミュニケーション(藤山 秋佐夫、川本 祥子、小林悟志、ムリアディ・ヘンドリ、北本 朝展、武田 秀明)　●化学の実践的問題解決のための知的システムの研究(佐藤 寛子)　●プログラムの汎化と仮説生成に関する研究(井上 克巳)　●高等教育向きコンテンツ共有型e-Learning環境WebELSの研究開発(上野 晴樹)　●マルチエージェントシステムにおける投機的計算(佐藤 健)　●経験と対話を通じて発達するロボット知能の構成論的研究(稲邑 哲也)　●Semantic Webにおけるすべての人の為の高度な内容タグ付け(ナイジェル・コリアー)

アーキテクチャ科学研究系

コンピュータ、ネットワークなどのソフトウェア・ハードウェアのアーキテクチャやシステム化に関する研究を行っています。

モデル検査法に基づく形式検証の研究

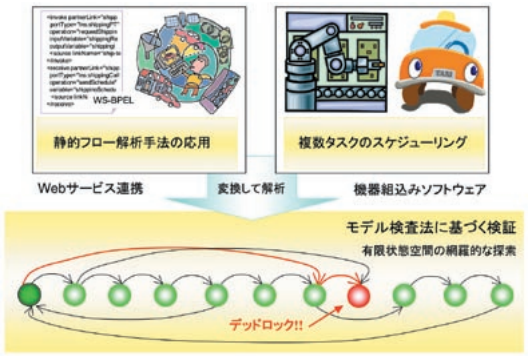
ソフトウェアが社会の隅々に浸透すると共に、安心して使えることを保障するための形式検証の技術、特に、モデル検査法が使われるようになってきた。モデル検査法の基本的な考え方は有限状態空間の網羅的な探索を行って、制御の流れに不具合があるか否かを調べることである。

モデル検査法を有効に使うためには無駄な探索を避ける工夫が大切であり、検証対象ソフトウェアの性質をうまく利用することが肝心である。インターネット上でWebサービスを連携させるWS-BPELプログラムの解析ではコンパイラの技法を応用する方法、機器組込みソフトウェアでは複数タスクのスケジューリング・ポリシーを考慮して状態空間を削減する方法が有効であるとがわかった。

一般のソフトウェアは制御だけではなくデータも取り扱うが、データ値の組み合わせパターンが膨大になるために状態数が爆発する。これを避けるための系統的な方法として、データに関する制約系をモデル検査法に融合する研究を進めている。

（中島 震）

参考文献：Shin NAKAJIMA：Lightweight Formal Analysis of Web Service Flows, Progress in Informatics, No.2, pp. 57-76 (2005).
中島震：UMLステートダイアグラムの亜種を用いた組み込みソフトウェア振舞い解析、情報処理学会論文誌、Vol. 46, No. 11, pp.2643-2653(2005)



移動するネットワーク（ネットワークモビリティ：NEMO）に関する研究

ソフトウェアが社会の隅々に浸透すると共に、安心して使え新幹線やバス内のネットワークのようにローカルネットワーク自体が移動する環境の中で、多数の乗客の端末が無線で接続されてインターネットにアクセスする状況が、今後ますます増えてくると予想される。このような移動ネットワーク環境（ネットワークモビリティ：NEMO）においては、乗客の端末やローカルネットワークとインターネットとの接続点がどんどん変わっていくので、通信相手（図のCN）から送られたデータ（IPパケット）が、移動するネットワーク経由で移動端末（図のMNN）に正しく送り届けられるようにネットワーク側で自動的に制御する技術が必要となる。

そこで、このような経路制御を最適に行う方法として我々は、移動ネットワークの出入り口に配置したモバイルルータ（図のMR）が、従来、移動端末（図のMNN）の行っていた経路更新情報の通知などの仕事を代行し、相手端末との間で直通ルート（図のPATH）を張ってデータを流す方式（MoRaRo：Mobile Router-Assisted Route Optimization）を研究している。MoRaRo方式は、最適化しない方式に比較してIPパケット配送効率を2倍以上向上させるとともに、条件にもよるがパケット転送遅延時間を2-4倍程度短縮することができる。

（山田茂樹、上岡英史）

参考文献：Ved P. Kafle, Eiji Kamioka, and Shigeki Yamada, "MoRaRo：Mobile Router-Assisted Route Optimization for Network Mobility(NEMO)Support", IEICE Transactions on Information and System, Vol.E89-D, No.1, pp.158-170, Jan 2006

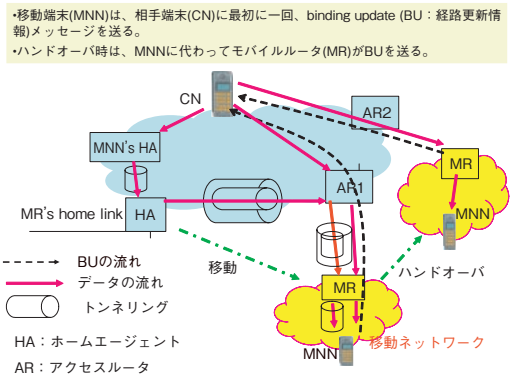


図 MoRaRoによる経路最適化手法

その他の研究

●次世代光ネットワーク制御技術の開発（淺野 正一郎） ●耐災害性を考慮するネットワーク運用技術の開発（淺野 正一郎） ●超高速ネットワークにおける通信品質保証技術の開発（阿部 俊二） ●マルチレイヤネットワークにおける資源最適化制御技術に関する研究（漆谷 重雄） ●マルチサービスネットワークにおけるトラヒック制御と品質保証の研究（計 宇生） ●マルチプロセッサシステムにおける高性能結合網に関する研究（鯉渕 道紘） ●ユビキタス・モバイルコンピューティング向けミドルウェアの設計・実装（佐藤 一郎） ●ヒューマンインターフェース及び強化現実感（橋爪 宏達） ●XMLデータベースに対する問合せ最適化に関する研究（日高 宗一郎、加藤 弘之） ●インターネット情報流の観測、解析、モデリングに関する研究（福田健介） ●視覚的インタフェースを対象とした制約プログラミング（細部 博史） ●自由でかつ安全なコンテンツ流通を実現するエージェントフレームワーク（本位田 真一） ●耐故障性を持つ次世代オペレーティングシステムの研究（松本 尚） ●スマートに連携動作する基盤ソフトウェアの研究（丸山 勝巳、児玉 和也、日高 宗一郎、橋爪 宏達、計 宇生） ●グリッドコンピューティングとスーパーコンピューティングの研究（三浦 謙一） ●非同期式回路の高位合成に関する研究（米田 友洋） ●再利用指向ソフトウェア開発と品質保証（鷲崎 弘宜）

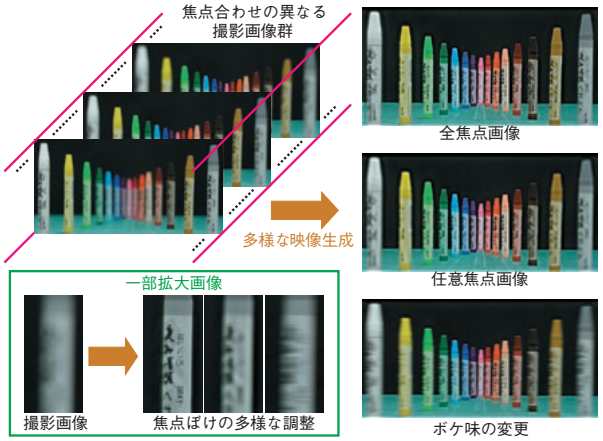
コンテンツ科学研究系

文章や映像など様々なコンテンツやメディアに関する分析・生成・蓄積・活用やそれらの処理方法に関する理論からシステム化にわたる研究を行っています。

単一レンズ系からの多様な映像生成

映像コンテンツを高機能化しその活用を促進するには、カメラから取り込まれた画像データのみでなくカメラ特性や撮影条件など付加的情報を組み込んだコンテンツを構成することが効果的である。例えば同一の対象を撮影するにしても、レンズを交換したり特殊な形の絞りを手作りする等して色々な焦点ぼけの形状、いわゆるボケ味を楽しむカメラユーザは多い。このような撮影に関する情報を画像データと組み合わせることで、撮影後も当該の映像コンテンツに付随する撮影条件を自由に変更する機能が提供できる。いわば撮影現場が仮想的に再現され、ユーザは満足がいくまで対象シーンを撮り直すことが可能となる。現在、単一のレンズ系から得られた焦点合わせの異なる画像群のみを用いて、仮想的に絞りを変更し全てに焦点を合わせた全焦点画像、ぼけの程度を調整した任意焦点画像、ボケ味の変更を施した画像等を生成する手法を提案している。

（児玉 和也）



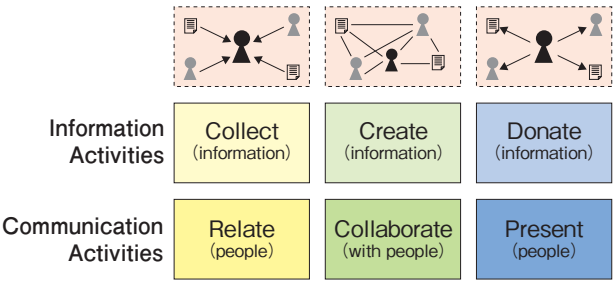
参考文献：K. Kodama, H. Mo, and A. Kubota：“All-in-Focus Image Generation by Merging Multiple Differently Focused Images in Three-Dimensional Frequency Domain”, Lecture Notes in Computer Science 3767, Springer, pp.303-314 (2005)

メタデータとパーソナルネットワークを用いた情報流通支援に関する研究

Web上の情報量が爆発的に増加している中で、必要な情報を確実に得ることは検索エンジンをもってしても容易ではない。また、ブログやソーシャルネットワーキングサービス(SNS)のように、Webをコミュニケーションのために利用する動きが盛んになっており、手軽かつ迅速な情報発信・情報収集手段が求められている。本研究では、この2つの課題に対して、情報の読み手・書き手・編集者である個人に注目し、その個人を取り巻く社会的な関係(パーソナルネットワーク)を利用した、新たな情報収集・コミュニケーションの実現に向けて取り組んでいる。具体的には、コンピュータに理解可能な情報のフォーマットであるメタデータの設計、このメタデータを個人が作成できるようなシステムの開発を行ったうえで、パーソナルネットワーク上でこれらの情報を流通させ、興味の強さ・関係の強さに応じた情報収集を行う手法を提案している。また、個人の情報収集活動の結果から知識体系を半自動的に構築し、情報収集の精度を高める研究を行っている。

（大向 一輝）

参考文献：Ikki Ohmukai, Masahiro Hamasaki, and Hideaki Takeda：“A Proposal of Community-based Folksonomy with RDF Metadata”, Workshop on End User Semantic Web Interaction, ISWC2005, 2005.



その他の研究

●並列連想計算方式の研究(高野 明彦) ●テキストマイニングの応用と電子コンテンツの活用(安達 淳) ●映像インデクシング(佐藤 真一) ●ヒューマンエージェントインタラクション(山田 誠二) ●機械学習による対話的文書検索とクエリ拡張(山田 誠二) ●Web情報の分類と検索による資源化と活用方法(大山 敬三) ●近似マッチングにおけるモデル学習の研究(高須 淳宏) ●テキストからの知識・言語資源構築に関する研究（相澤 彰子） ●日常生活環境における人間の行動計測技術の研究開発(杉本 晃宏) ●物体3次元形状の簡易モデル化(杉本 晃宏) ●離散コンピュータビジョンの構築(杉本 晃宏) ●地球科学や文化情報学のための大規模画像データベースの構築・検索手法の研究(北本 朝展) ●文化・芸術に関するアーカイブの活用と学習支援への応用に関する研究(相原 健郎) ●画像学習オントロジーの多言語セマンティック管理（Frederic Andres） ●ジオメディアデータベース管理（Frederic Andres） ●インターネットを利用した文化遺産の協力的モニタリングコントロール（Frederic Andres） ●注視プレゼンテーション・エージェントに関する研究（Helmut Prendinger） ●大規模映像コーパス解析のためのデータベース高速化手法(片山 紀生) ●多次元画像情報の構造化(児玉 和也) ●大規模放送映像アーカイブの構築とその内容理解・検索（佐藤 真一、片山 紀生、孟 洋） ●XMLデータベースに対する問合せ最適化に関する研究（加藤弘之、日高 宗一郎、石原 靖哲(阪大)、吉川 正俊(京大)） ●物理ベースドビジョンにもとづく物体の形状および反射特性の解析(佐藤 いまり) ●現実空間におけるユーザの電子的活動支援(佐藤 いまり) ●トピックと意見の言語モデルとその応用に関する研究（江口 浩二） ●クロスメディア検索(井上 雅史) ●Webにおけるコミュニケーション支援（大向 一輝）

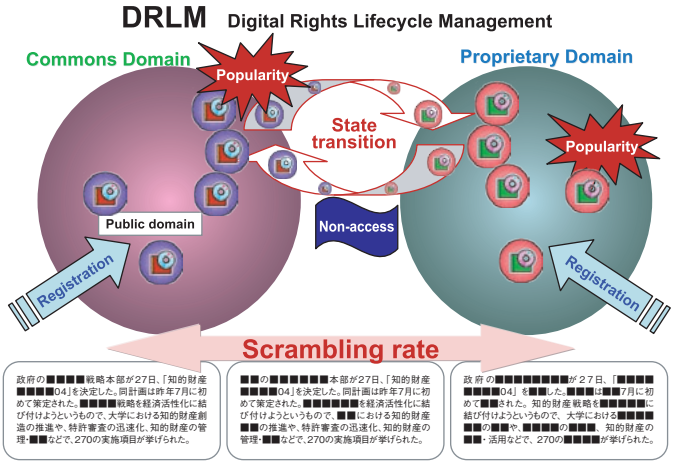
情報社会相関研究系

社会情報、学術情報、文化情報などの多様な情報と社会、コミュニティなどの相関について、情報技術の社会への実装に関する学際的な研究を行っています。

デジタル著作権ライフサイクル管理（DRLM：Digital Rights Lifecycle Management）の研究開発

デジタル革命がもたらした知的財産権の扱いに関する多くの問題は、連続（アナログ）と離散（デジタル）の違いに根ざしています。このため、デジタル時代に相応しい制度設計、技術・サービス、流通モデルの研究開発が不可欠となっています。デジタルコンテンツのネットワーク流通をデジタル商取引（digital commerce）と呼んでいます。そのような市場を活性化するには、情報発信という自己実現欲求を充足する商品、技術・サービス、システムの開発が必要です。ここでは、コンテンツが公開ドメインでの評判が高まれば自動的に商用ドメインに格上げされ、情報発信にインセンティブのあるデジタル著作権のライフサイクル管理（DRLM：Digital Rights Lifecycle Management）システムを研究開発しています。

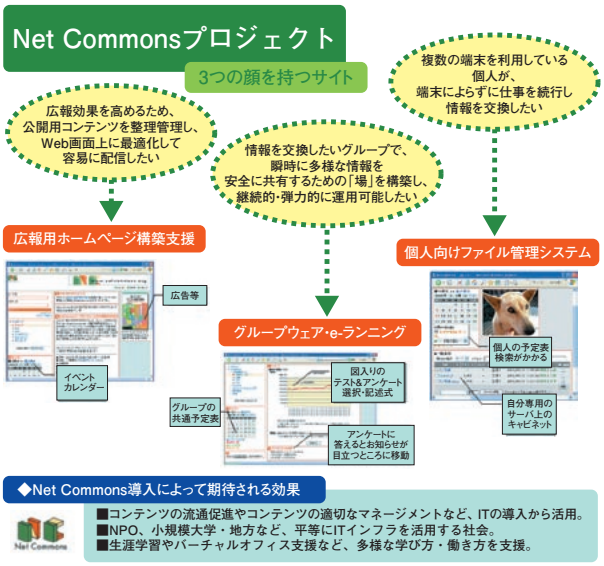
（曽根原 登）



NetCommonsプロジェクト

インターネット上の知的協調作業を支援するシステムとして、コンテンツマネージメントシステムやコミュニティウェアなど、情報共有を促進するためのソフトウェアが社会に浸透しつつあります。インターネット環境や認証システムの発達に伴って、今後はこのようなWeb上の情報共有基盤は単なる情報収集や情報共有のツールとしてだけでなく、仮想的な共同研究室として、あるいは個人の仮想オフィスとして発達することが予想されます。国立情報学研究所では、全国の研究教育機関、さらにはより広い意味での社会の情報共有基盤の開発を進めてきました。全国約70団体での実証実験を経て、2005年にGPLのオープンソースとして公開したのがNetCommons 1.0.0です。NetCommonsは、外部広報用ページ、ログイン後のグループページ、そして個人の情報ポータルとなる個人ページの三層構造を採用、グループウェア機能、そしてe-ラーニング機能を充実させ、全36種類のモジュール群を提供しています。これによって、知的な協調作業をする多様なグループがスムーズに情報共有をするための基盤を提供しています。現在NetCommonsは、大学等の共同研究用バーチャルラボに採用されているほか、小中学校の学校Webサイトの基盤など幅広く利用されています。

（新井紀子）



その他の研究

●知識の表現と利用（小山 照夫） ●メタデータ流通基盤の研究（曽根原 登） ●コミュニケーションにおける身体協調に関する研究（古山 宣洋） ●次世代ヒューマンインターフェイスの開発（植木 浩一郎） ●3次元モデルを対象とした類似検索システム（後藤田 洋伸） ●情報科学技術と社会制度の係わりに関する研究（東倉 洋一） ●ネットワーク法情報のポータルサイト構築に関する研究（岡田 仁志） ●政府情報アクセスに関する法・制度・政策的研究（古賀 崇） ●基礎研究振興における科学研究費の役割に関する実証的研究（根岸 正光、柴山 盛生、西澤 正己、孫 媛） ●Triple Helixモデルによる我が国の産官学連携ネットワークの実証分析（孫 媛、根岸 正光、宮澤 彰、西澤 正己） ●特許出願から見た産学連携に関する研究（柴山 盛生） ●情報検索システムの評価（神門 典子）

研究施設(センター)

リサーチグリッド研究開発センター

最先端学術情報基盤(CSI)における先端的研究開発に必要なグリッドミドルウェアの研究開発、成果の普及および運用管理を行います。

連想情報学研究開発センター

大規模コンテンツを対象に連想計算機構の研究開発を行い、人間の連想能力を高めることを支援する実践的な情報技術を構築します。

戦略研究プロジェクト創成センター

研究の展開を組織的に支援することが必要とされる情報学研究の重要課題に対して、その組織化や資源提供を行います。

学術ネットワーク研究開発センター

最先端学術情報基盤(CSI)の中核である学術ネットワークと全国共同電子認証基盤に関して、関係諸機関と連携し、先端的な研究開発の企画とネットワークとシステム構築を推進します。

学術コンテンツサービス研究開発センター

最先端学術情報基盤(CSI)の上で活用される学術的なデジタルコンテンツの生成や共有に関して、関係諸機関と連携し、先端的な研究開発およびその流通等に関する企画立案を行います。

研究連携開発本部

学術情報ネットワーク運営・連携本部

最先端学術情報基盤(CSI)の中核となる次世代ネットワーク及びミドルウェア等の構築について企画立案し、運営を行う組織です。

学術コンテンツ運営・連携本部

最先端学術情報基盤(CSI)の中核となる学術コンテンツの形成及びサービスの提供について企画立案し、運営を行う組織です。

未来価値創発型情報学研究連合

未来の社会的、技術的要請に応える未来価値の創発を目指して、長期的重要課題を設定し、全国大学や研究機関などとの広範な連携によって、情報学の難問解決に取り組みます。

社会産学連携活動推進本部

情報学による社会公共貢献や産学官連携を推進し、社会や産業界への研究成果の有効な還元や新しい価値の創成を推進するとともに、連携活動推進のモデルやフレームワークの構築に取り組みます。

重点プロジェクト

最先端学術情報基盤（サイバー・サイエンス・インフラストラクチャー:CSI）

■次世代学術情報ネットワーク: SINET3
http://www.sinet.ad.jp/
学術情報ネットワーク運営・連携本部

■CSI向け連携ミドルウェア
http://www.naregi.org/
リサーチグリッド研究開発センター

■学術コンテンツサービス
http://www.nii.ac.jp/irp/index.html
学術コンテンツ運営・連携本部

■大学電子認証基盤:UPKI
学術情報ネットワーク運営・連携本部

未来価値創成型情報学

■情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究
http://itkaken.ex.nii.ac.jp/i-explosion/
安達 淳

■量子エンタングルメントを用いたセキュリティ技術
http://www.qis.ex.nii.ac.jp/ex_project2005.html
山本 喜久

■サイエンスグリッド
三浦 謙一

次世代ソフトウェア戦略

■次世代オペレーティングシステム: SSS-PC
松本 尚

■基盤的ソフトウェア技術開拓
丸山 勝巳

■トップエスイー（サイエンスによる知的ものづくり教育プログラム）
http://www.topse.jp/
本位田 真一

情報環境/コンテンツ創成

■新世代バイオポータルの開発研究
http://www.bioportal.jp/
藤山 秋佐夫

■自発的な学びを育む連想的情報アクセス技術
http://www.cc-society.org/about/about_cts02.html#ctslink05
高野 明彦

■連想検索、汎用連想計算エンジン GETA
http://geta.ex.nii.ac.jp/
高野 明彦

■デジタル・アーカイビングにおけるコンテンツ統合・利活用技術に関する研究
http://research.nii.ac.jp/ceax/
安達 淳

■考えるコンテンツ「スマーティブ 」
http://smartive.jp/
本位田 真一

■デジタルシネマの標準技術
http://www.mpeg.rcast.u-tokyo.ac.jp/DECSDP/index.html
曽根原 登

■情報検索・アクセス技術の評価と性能比較の研究基盤: NTCIR
http://research.nii.ac.jp/~ntcadm/index-ja.html
神門 典子

社会・公共貢献

■文化遺産オンライン http://bunka.nii.ac.jp/
高野 明彦

■情報共有システム:NetCommons
http://www.netcommons.org/
新井 紀子

■ディジタル・シルクロード
http://dsr.nii.ac.jp/
小野 欽司

■情報信頼メカニズム（Infotrustics）
曽根原 登

融合の情報学

■比較ゲノム解析による進化・多様性のゲノム基盤の解明
http://www.genome-sci.jp/
藤山 秋佐夫

各教員の研究テーマ一覧

情報学プリンシプル研究系

■数理情報

宇野 毅明	●データマイニングやゲノム情報学での大規模計算の高速化アルゴリズムの開発 ●離散、特に列挙アルゴリズムの計算量解析 ●スケジューリング、施設配置など産業用計算モデルの構築と高速解法の研究
河原林 健一	●離散数学におけるグラフ彩色問題　●グラフ構造理論とアルゴリズム　●ネットワークフローとパス問題
速水 謙	●数値解析: GMRES(一般化残差最小化)法の特異な線形系や最小二乗問題への応用 ●脳磁界逆問題(MEG)で生じる連立代数方程式の数値解法

■数理論理

金沢 誠	●ラムダ計算にもとづく形式文法の研究　●自然言語の論理的意味論の研究
龍田 真	●古典論理に対応する型理論　●置換簡約の強正規化可能性
照井 一成	●線形論理と型理論および計算の複雑さに関する研究

■量子情報

根本 香絵	●量子情報・計算　●量子光学　●理論物理学
松本 啓史	●量子情報および量子計算
山本 喜久	●光子を用いた量子情報処理、通信の研究　●電子を用いた量子シミュレーションの研究
渡辺 曜大	●量子鍵配送方式の安全性についての研究　●暗号系の安全性概念についての研究 ●確率推論アルゴリズムの特性についての研究

■物質・生命情報

佐藤 寛子	●コンピュータによる化学反応予測に関する研究　●コンピュータによるNMR化学シフト予測に関する研究 ●化学情報の可視化と化学ソフトウェアのインタフェースに関する研究
藤山 秋佐夫	●比較ゲノムインフォマティクスの手法によるゲノム機能解析研究

■知能情報

市瀬 龍太郎	●関係知識の学習　●知識の共有システム　●データマイニング
稲邑 哲也	●ヒューマン・ロボット・インタラクション　●確率的情報処理に基づくロボット知能の構成論的研究 ●ロボットの身体性に基づく知能情報処理
井上 克巳	●結論発見と理論形成に関する研究　●帰納と発想に関する研究　●知識更新に関する研究
上野 晴樹	●高等教育向きコンテンツ共有型e-Learning環境WebELSの研究開発 ●知識更新に関する研究伝統文化に基づく技術倫理の研究
Nigel Henry Collier	●ウェブページに対する意味のアノテーションの機械学習　●情報抽出　●オントロジー工学の研究 ●Bioテキストマイニング
佐藤 健	●投機的計算機構をもつマルチエージェントシステムの構築　●法的推論への人工知能からのアプローチ
武田 英明	●知識共有システム　●コミュニティ支援　●設計学

アーキテクチャ科学研究系

■ネットワークアーキテクチャ

淺野 正一郎	●次世代光ネットワーク制御技術の開発　●耐災害性を考慮するネットワーク運用技術の開発
阿部 俊二	●通信トラヒック計測による性能解析と品質制御方式の研究　●ホトニックネットワークアーキテクチャの研究 ●モーバイルIP通信方式の研究
福田 健介	●インターネットトラフィック測定、解析およびモデリングに関する研究　●ネットワーク科学に関する研究

■情報通信ネットワーク

漆谷 重雄	●マルチレイヤネットワークにおける資源最適化制御技術に関する研究
上岡 英史	●ユビキタスコンピューティング・ネットワークの研究　●コンテクストアウェア情報通信ネットワークの研究 ●PAN環境におけるシームレスサービス・モビリティの研究
計 宇生	●マルチサービスネットワークにおける品質保証の研究　●ネットワークトラヒックの特性解析と制御手法の研究 ●分散処理システムにおける資源管理方式の研究
松方 純	●高速インターネットにおけるネットワーク制御方式

山田 茂樹	●コンテクストアウェア/モバイル・コンピューティングネットワークの研究　●プライバシー保護技術の研究
■計算機アーキテクチャ	
鯉渕 道紘	●マルチプロセッサシステムにおける高性能結合網　●ネットワークオンチップのアーキテクチャ ●PCクラスタにおけるイーサネットを用いた相互結合
橋爪 宏達	●ヒューマンインターフェース及び強化現実感　●共調作業支援システム
山田 茂樹	●コンテクストアウェア/モバイル・コンピューティングネットワークの研究　●プライバシー保護技術の研究
松本 尚	●次世代オペレーティングシステムSSS-PCの耐故障性機能拡張に関する研究 ●高速ネットワークを効率良く制御するための高性能組込マイクロプロセッサの研究
三浦 謙一	●グリッドコンピューティング　●スーパーコンピュータのアーキテクチャと性能評価 ●大規模シミュレーション向き並列数値アルゴリズム、モンテカルロ法、非線形力学
■基盤ソフトウェア	
佐藤 一郎	●ユビキタス・モバイルコンピューティング向けミドルウェアの研究 ●分散オブジェクト・モバイルエージェントの研究
日高 宗一郎	●XML問合せ言語処理系における最適化に関する研究　●非数値計算向け並列処理環境に関する研究 ●拡張型分散OSに関する研究
丸山 勝巳	●コンポーネント化による拡張型分散OSの研究　●能動オブジェクトによる広域連携システムの研究 ●通信ソフトウェアの研究
■ソフトウェア工学	
中島 震	●ソフトウェアの形式仕様と検証の研究(Webサービスならびに組込みシステムへの応用)
細部 博史	●視覚的インタフェースを対象とした制約プログラミング　●柔らかい制約の理論と解消法
本位田 真一	●エージェント指向ソフトウェア工学　●エージェントアーキテクチャ　●先進的エージェントアプリケーション
米田 友洋	●非同期式回路の高位合成に関する研究　●非同期式回路のFPGAへのマッピングに関する研究 ●リアルタイムソフトウェアの形式的検証に関する研究
鷲崎 弘宜	●コンポーネントベース・モデル駆動ソフトウェア開発 ●ソフトウェアパターンとプロセスラインによる知識・プロセス再利用 ●メトリクスとテストによるソフトウェア品質保証

コンテンツ科学研究系

■コンテンツ基盤	
加藤 弘之	●カジュアルなデータベース問合わせの最適化手法に関する研究 ●XMLデータベースの問合わせ最適化のための基礎的枠組みに関する研究
高須 淳宏	●近似マッチングモデルの学習　●非線型時系列文書解析　●分散インデクス処理
高野 明彦	●並列連想計算方式の研究　●連想に基づく情報空間との対話技術の研究　●ソフトウェアの科学的構築法の研究
■テキスト・言語メディア	
相澤 彰子	●テキスト情報の同定とリンク抽出に関する研究 ●統計的手法によるテキストの分析と言語資源の自動構築に関する研究
安達 淳	●不均質コンテンツ、特にWebコンテンツの検索と情報統合　●情報検索の高度化と実装　●テキストマイニング
江口 浩二	●Webコンテンツ検索手法と評価に関する研究　●トピックと意見の言語モデルとその応用に関する研究
大山 敬三	●Web情報活用技術の研究　●学術情報統合プラットフォームの研究　●全文検索技術の研究
片山 紀生	●映像コーパス解析のためのデータベースシステム技術
■パターンメディア	
北本 朝展	●大規模科学画像データベースのマイニング　●メテオインフォマティクス(気象情報学)　●デジタルアーカイブ
児玉 和也	●実時間での品質調整に適した多次元画像情報の構造化とその分散共有通信方式の研究
佐藤 いまり	●物理ベースドビジョンに基づく物体の形状および反射特性の解析　●現実空間におけるユーザの電子的活動支援
佐藤 真一	●放送映像アーカイブを用いた映像解析・検索・情報発見に関する研究　●画像検索に関する研究
杉本 晃宏	●日常生活環境における人間の行動計測技術の研究開発　●物体3次元形状の簡易モデル化 ●離散コンピュータビジョンの構築
孟 洋	●事例型映像索引付け手法に関する研究　●映像の知的構造化に関する研究
■人間・知識メディア	
相原 健郎	●文化・芸術に関する生涯学習者を支援する方策に関する研究 ●フィールドスタディにおける情報獲得と活用に関する研究
Frederic Andres	●画像学習オントロジーの多言語セマンティック管理　●ジオメディアデータベース管理 ●インターネットを利用した文化遺産の協力的モニタリングコントロール
井上 雅史	●複数情報源からの学習　●クロスメディア情報検索 ●コミュニケーション理解

各教員の研究テーマ一覧

大向 一輝	●セマンティックWebにおけるコミュニケーションとインタラクションに関する研究 ●パーソナルネットワークに基づく情報流通支援
Helmut Prendinger	●擬人化キャラクタ　●マルチメディア/マルチモダールプレゼンテーションシステム ●生理的相互システム
山田 誠二	●ヒューマンエージェントインタラクション　●対話的情報収集/検索

情報社会相関研究系

■情報利用

新井 紀子	●情報共有・コミュニティ形成型遠隔教育システムの研究開発 ●Web上の協調作業および協調学習 ●数理論理学
植木 浩一郎	●次世代ヒューマンインターフェイスの開発
神門 典子	●情報検索システムの評価 ●情報メディアの構造・ジャンルの分析と情報アクセス技術への応用 ●マルチファセットメタデータと検索UI ●言語横断検索
後藤田 洋伸	●三次元形状モデルの類似検索 ●論文情報の可視化
小山 照夫	●テキストコーパスからの用語抽出　●用語の体系化 ●複合語の構造解析　●知識の表現と利用
古山 宣洋	●コミュニケーションにおける身体協調に関する研究
宮澤 彰	●総合目録データベースの構築、利用に関する研究 ●漢籍総合目録とNACSIS-CAT総合目録のリンクに関する研究 ●データベース表現の基礎としての文字セットに関する研究 ●D-データ処理用システムの構築

■学術情報

柴山 盛生	●研究動向と研究評価に関する計量的研究 ●研究環境の動態に関する統計的研究 ●研究活動における創造性の創出に関する研究
孫 媛	●産官学連携に関するビブリオメトリックス的研究 ●情報科学関連研究のネットワーク構造分析 ●日本語テストにおけるDIF研究
西澤 正己	●情報科学関連研究のネットワーク構造とその動向把握に関する調査研究 ●基礎研究振興における科学研究費の役割に関する実証的研究　●我が国の産学官連携ネットワークの実証的分析
根岸 正光	●情報通信技術の進展下における、データベース、電子図書館、電子ジャーナル等の技術とサービスの動向に関する研究 ●研究水準の測定および研究動向の把握に関するビブリオメトリックス的研究

■情報制度

上田 昌史	●情報制度論　●情報組織論
岡田 仁志	●電子商取引および電子情報社会の成長決定要因(CGF)に関する国際比較研究 ●大学情報セキュリティ・ポリシー・ポータル(UISPP)の構築に向けた共同研究
北岡 元	●インテリジェンス生産における、カスタマー（情報要求者）と生産者との関係の研究 ●リクワイアメント(情報要求)創出のメカニズムに関する研究 ●インテリジェンス・コミュニティの統合・強化のための政策に関する研究
古賀 崇	●政府情報アクセスに関する法・制度・政策的研究　●横断的アーカイブズ論の研究
曽根原 登	●デジタル・コンテンツのネットワーク流通の研究　●知的財産権の生産・流通・消費ライフサイクル管理技術の研究
東倉 洋一	●情報科学技術と社会制度の係わりに関する研究 ●科学技術の社会貢献に関する研究 ●人間情報処理の学際的研究

大学院教育

国立情報学研究所は、本研究所の特色である情報学の包括的研究体制、学術情報サービス事業を研究開発と一体のものとして行う実践的環境を活用して、広い視野と高度な専門性及び指導力を持った研究者、真に問題解決能力を持った研究者の育成を目指し、主に、

⑴総合研究大学院大学への参画

⑵連携大学院

⑶特別共同利用研究員の受入れ

の3つの形態で大学院教育を実施しています。

総合研究大学院大学 情報学専攻

■大学院設置

国立情報学研究所は、平成14年4月、総合研究大学院大学(総研大)に参加し、「情報学専攻」(博士後期課程)を開設しました。また、平成18年度からは、5年間で博士の学位を取得する、5年一貫制博士課程(5年一貫入学定員4名、博士後期入学定員6名)に移行しました。

総研大は、6研究科22専攻を有する大学院のみの大学で、そのうち5研究科20専攻については、大学共同利用機関等を専攻の基盤組織としています。

■内容・構成

情報学専攻では、21世紀を担う国際レベルの若手IT研究者・技術者の養成を目指しており、「博士(情報学)」(内容に応じ、「博士(学術)」)の学位を取得できます。

本専攻の教育・指導分野は、⑴情報基礎科学、⑵情報基盤科学、⑶ソフトウェア科学、⑷情報メディア科学、⑸知能システム科学、⑹情報環境科学の6分野の専門科目及び共通専門基礎科目から構成されており、計77科目の授業科目が用意されています。

■国際大学院コース

外国からの優秀な留学生を募集し、学術研究の新しい流れに対応でき、国際的で独創性豊かな研究者養成を目的とする国際大学院コースを、平成14年10月から本専攻内に開設しました。このコースでは、講義はすべて英語で行われています。

情報学専攻の講義風景

大学院生室

■情報学専攻所属在学生数(平成18年4月現在)　　(　)は外国人留学生で内数

入学年度		一般コース	国際大学院コース	計
平成14年度	4月	4	——	5 (0)
	10月	1 (0)	0	
平成15年度	4月	10 (2)	——	17 (7)
	10月	3 (1)	4(4)	
平成16年度	4月	6 (3)	——	15 (5)
	10月	7 (0)	2(2)	
平成17年度	4月	6 (1)	——	14 (3)
	10月	7 (1)	1(1)	
平成18年度	4月	9 (3)	——	9 (3)
計		53(11)	7(7)	60(18)

■情報学専攻所属学生の出身校一覧

日本	北海道大学	東北大学	筑波大学
	図書館情報大学	東京大学	電気通信大学
	横浜国立大学	静岡大学	名古屋大学
	三重大学	京都大学	大阪大学
	神戸大学	九州大学	奈良女子大学
	会津大学	慶應義塾大学	芝浦工業大学
	成城大学	東海大学	東京電機大学
	東京理科大学	日本大学	法政大学
	早稲田大学	同志社大学	放送大学
中国	East China Normal University Harbin Institute of Technology Nankai University University of Science and Technology of China		
韓国	Seoul National University		
イラン	Amirkabir University		
ベトナム	University of Natural Science		
バングラデシュ	Dhaka University		
フランス	Institut National des Télécommunications Universite de Savoie		
ドイツ	University of Leipzig University of Paderborn		
英国	University of Bristol		
スウェーデン	Royal Institute of Technology		
米国	University of Pittsburgh Yale University		
その他	Asian Institute of Technology		

連携大学院

国立情報学研究所は、東京大学、東京工業大学及び早稲田大学の大学院と連携し授業を行うとともに、本研究所に大学院生を受入れ研究指導を行うなど、大学院教育に積極的に協力しています。

■連携大学院

大学	大学院研究科	備考
東京大学	情報理工学系研究科	平成13年度～
東京工業大学	情報理工学研究科	平成14年度～
	総合理工学研究科	平成15年度～
早稲田大学	理工学研究科	平成17年度～

特別共同利用研究員

国立情報学研究所は、大学共同利用機関としての研究活動の充実と教育の発展に資するため、他大学の大学院生を特別共同利用研究員(受託大学院生)として受け入れています。

これらの特別共同利用研究員は、本研究所が持つ豊富な学術情報データベースや情報通信インフラを利用しての教育研究指導を受けるとともに研究にも従事し、その研究課題に応じた本研究所の教員から指導を受けています。

■特別共同利用研究員の所属大学(平成18年4月現在)

大学	大学院研究科
千葉大学	自然科学研究科
東京大学	理学系研究科
東京大学	学際情報学府
東京農工大学	工学府
東京工業大学	総合理工学研究科
北陸先端科学技術大学院大学	知識科学研究科
慶應義塾大学	理工学研究科
中央大学	理工学研究科
東海大学	工学研究科
東京理科大学	工学研究科

上記連携大学院や特別共同利用研究員により受け入れている他大学大学院生数は表のとおりです。

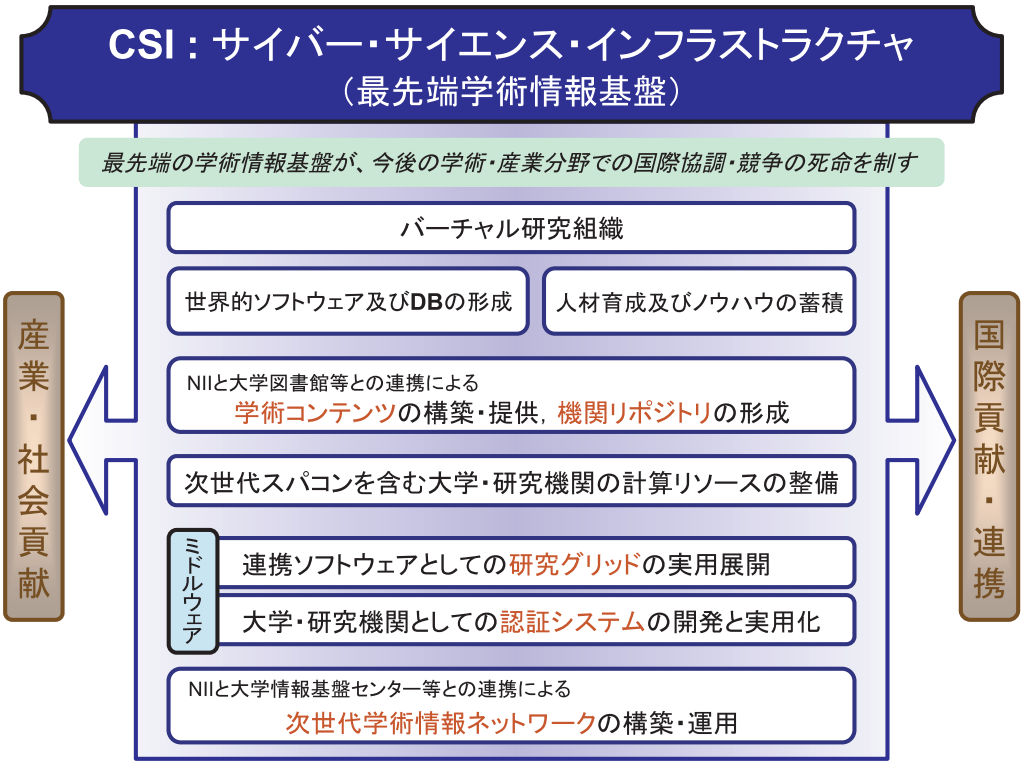
■研究指導している他大学の学生数(平成18年4月現在)

修士課程	博士後期課程	計
36名	23名	59名

問合せ先／研究協力課 大学院係
TEL 03-4212-2110　FAX 03-4212-2120　E-mail : daigakuin@nii.ac.jp

最先端学術情報基盤（CSI）の構築

国立情報学研究所では、我が国の学術研究・教育活動を促進し国際競争力をいっそう強化するため、大学等との連携により、最先端学術情報基盤（サイバー・サイエンス・インフラストラクチャ：CSI）の構築を推進しています。



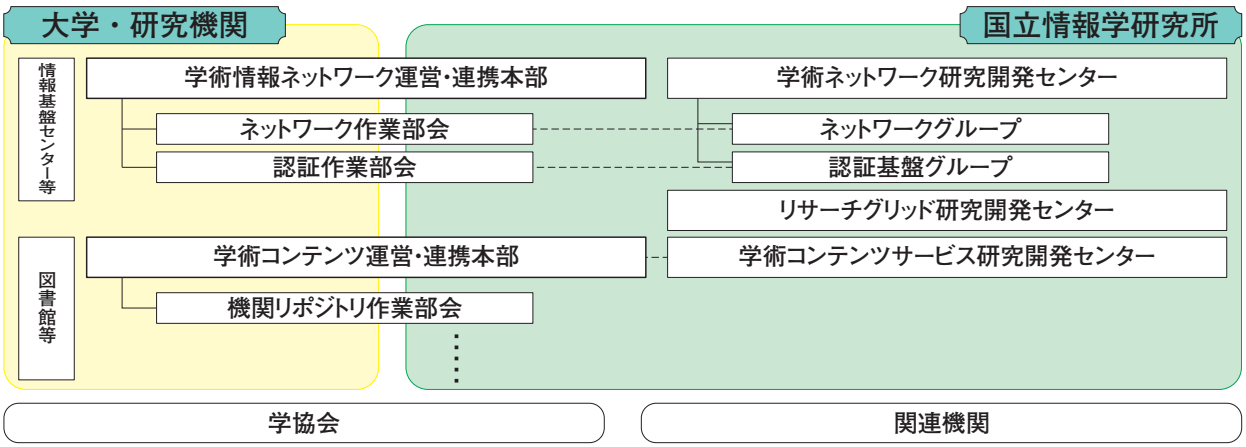
これまで実施してきた各種開発・事業を、CSIの枠組みの中で拡充しつつ、次の3つについて重点的な取り組みを行っています。

1.NIIと大学情報基盤センター等との連携による、次世代学術情報ネットワーク、全国的な電子認証基盤及びグリッド環境の整備

2.NIIと大学図書館等との連携による、次世代学術コンテンツ基盤の整備

3.未来価値創発型の全国情報学研究連合の形成

これらを円滑に実施するため、NIIと大学等研究機関が密接に連携協力し、我が国の学術コミュニティが一体となりCSIの構築を進める体制を整え、強力に推進していきます。



問合せ先／企画調整課 企画調整係
TEL 03-4212-2215　FAX 03-4212-2230　E-mail:plan@nii.ac.jp

学術情報ネットワーク

http：//www.sinet.ad.jp/

学術情報ネットワーク（SINET／スーパーSINET）は、日本全国の大学、研究機関等の学術情報基盤とし教育・研究に携わる数多くの人々のコミュニティ形成を支援しつつ、多岐にわたる学術情報の促進を図るワーク環境を提供しています。また、国際的な先端研究プロジェクトで必要とされる国際間の研究情報流ネットワークと相互接続しています。
平成18年1月からは、TEIN2プロジェクト*3と連携・協力し、SINETのアジア回線（香港／シンガポール）さらに、最先端学術情報基盤（サイバー・サイエンス・インフラストラクチャ：CSI）の中核となる次世代学

スーパーSINET

スーパーSINETは、従来のネットワーク環境では不可能な膨大な量のデータを共有し、処理することが求められる先端的研究プロジェクトを支援するために平成14年1月から運用を開始しました。超高速なネットワークに依存する研究を行っている高エネルギー科学、核融合科学、宇宙科学、天文学、遺伝子情報解析、ナノテクノロジー研究、シミュレーション科学、グリッドコンピューティング等の研究プロジェクトに参加する大学等の学術研究機関に対し、最大10ギガビット／秒のネットワーク環境を提供しています。その結果、これまでに数多くの優れた研究成果が出てきています。

SINET3

これまで、回線速度が1GbpsのSINETと、10Gbpsのスーパー SINETの2つの基盤を提供してきましたが、より高速・高品質・多機能なサービスを提供するため、これら2つの基盤を統合した次世代学術情報ネットワーク（SINET3）の構築に着手しました。

SINET3は、平成19年度から段階的に運用を開始し、多様なサービスメニューで利用者に革新的な研究・教育環境を提供する予定です。

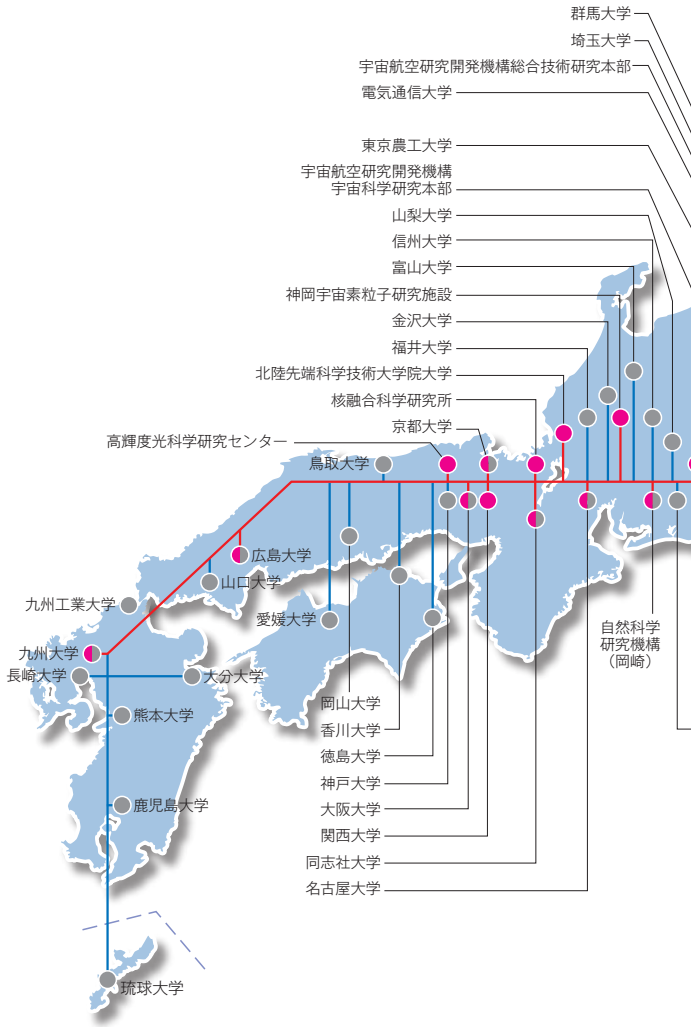
*1 Abilene　次世代インターネットの開発プロジェクトである「Internet2」が運用するテストベッドで、全米約190以上の大学研究機関等が参加
*2 GÉANT　欧州委員会（EC）が政策的に構成する汎欧州研究ネットワークで、30ヶ国以上で3000以上の研究・教育機関が参加
*3 TEIN2プロジェクト　ヨーロッパとアジア太平洋地域を結ぶ学術ネットワークプロジェクトで、欧州の非営利団体DANTEが運用

スーパーSINETノード

- 北海道大学
- 東北大学
- 東北大学 金属材料研究所
- 東北大学 流体科学研究所
- 筑波大学
- 高エネルギー加速器研究機構
- 日本原子力研究開発機構
- 東京大学
- 東京大学 物性研究所
- 東京大学 医科学研究所
- 東京工業大学
- 統計数理研究所
- 国立天文台
- 早稲田大学
- 慶應義塾大学
- 秋葉原クロスフィールド
- 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部
- 宇宙航空研究開発機構 総合技術研究本部
- 海洋研究開発機構
- 北陸先端科学技術大学院大学
- 国立遺伝学研究所
- 核融合科学研究所
- 神岡宇宙素粒子研究施設
- 自然科学研究機構（岡崎）
- 名古屋大学
- 京都大学
- 京都大学 化学研究所
- 同志社大学
- 大阪大学
- 関西大学
- 高輝度光科学研究センター
- 広島大学
- 九州大学
- 国立情報学研究所（一ツ橋）
- 国立情報学研究所（千葉分館）

平成18年度回線速度

- スーパー SINET（10Gbps）
  国際回線
  （12.4Gbps：米国向け／622Mbps：香港向け／622Mbps：シンガポール向け）
- SINET（1Gbps）
- 国立情報学研究所
- スーパー SINETノード機関
- SINETノード機関
- スーパー SINET及び SINETノード機関



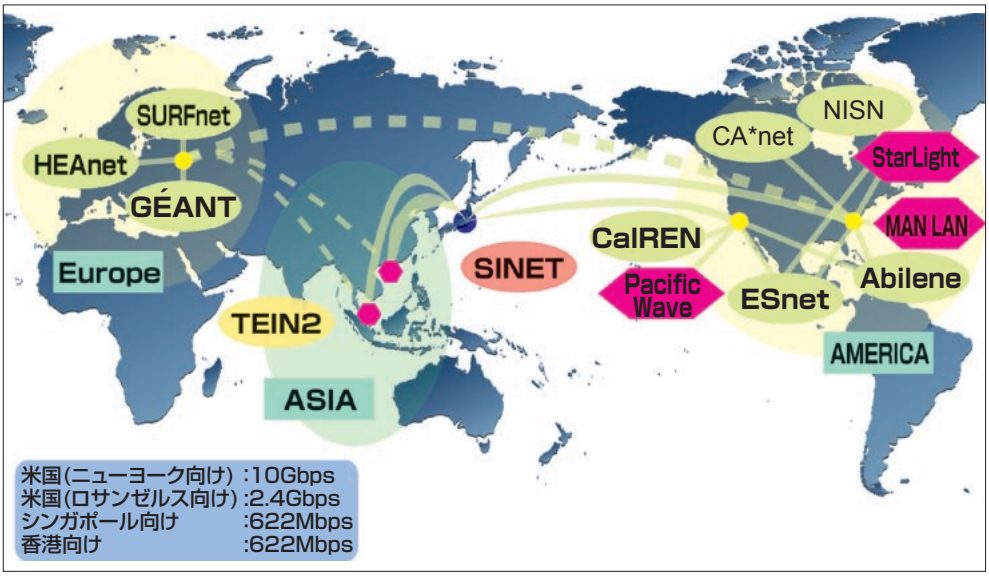
て構築、運用されている情報ネットワークです。
べく、全国にノード(ネットワーク接続拠点)を設置し、大学、研究機関等に対して先進的なネット
通を円滑に進められるように、米国Abilene*1や欧州GÉANT*2をはじめとする、多くの海外研究

が開通しました。これにより、アジア地域との学術研究情報の流通促進が一層充実、強化されました。
術情報ネットワーク(SINET3)の本格的な導入に向けて検討を開始しました。

学術情報ネットワーク加入機関数
(平成18年3月末)

国立大学	(80)
公立大学	(51)
私立大学	(274)
短期大学	(66)
高等専門学校	(41)
大学共同利用機関	(14)
その他	(182)
合計	(708)

問合せ先
ネットワーク課 計画係
TEL 03-4212-2255　FAX 03-4212-2270
E-mail : net6@sinet.ad.jp

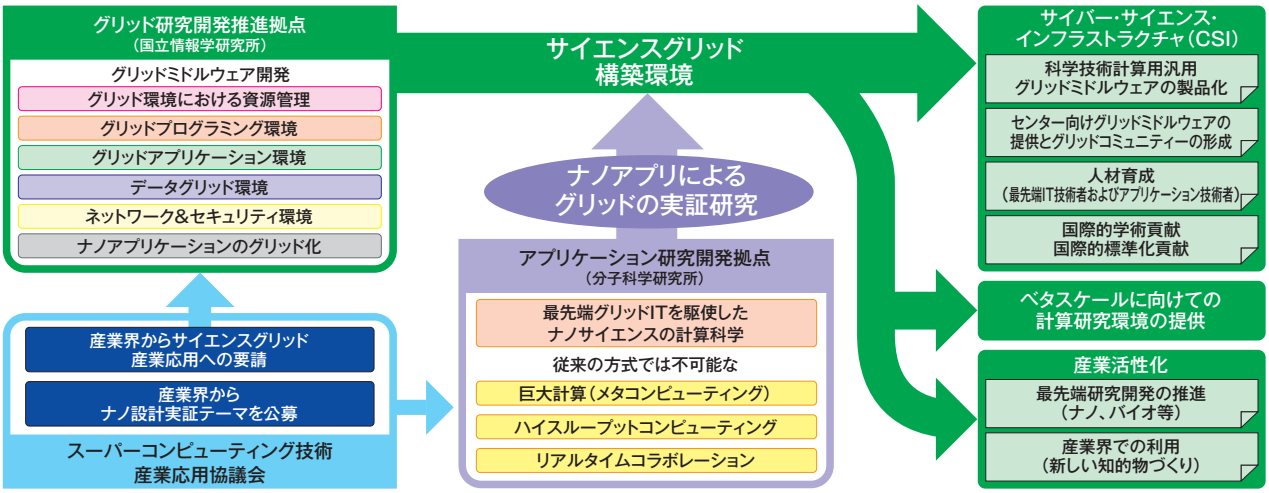


海外研究ネットワークとの相互接続

サイエンスグリッドNAREGIプログラム

NAREGIプログラムの目指すもの

NAREGI(National Research Grid Initiative)プログラムでは、「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」プロジェクト の一環として、ペタスケール時代の計算研究環境の構築を視野に入れたグリッドミドルウェアの研究開発を行っています。本プログラムは、国立情報学研究所及び分子科学研究所を中核として、各協力機関と強力な連携を図るために共同研究開発体制を取り、産業界とも連携を取っています。国立情報学研究所においては、グリッドミドルウェアの研究開発及びグリッド環境の構築・運用に必要なツールの提供を行うとともに、諸外国のグリッド環境との連携を目指しています。ここで得られた成果は、最先端学術情報基盤(サイバー・サイエンス・インフラストラクチャ:CSI)の実現に大いに貢献するものと期待されています。さらに分子科学研究所においては、グリッドミドルウェアを実証研究拠点として、ナノ分野をターゲットとし、従来コンピュータシステムでは実現不可能であった大規模シミュレーションソフトウェアの研究開発を実施しています。



グリッド研究開発推進拠点における研究テーマの紹介

グリッド環境における資源管理

テーマ　●スーパースケジューラ　●グリッドVM　●分散情報サービス

研究内容　CPU数、緊急度、費用等ユーザからの要求を取り入れて計算資源の確保を行うブローカ機能を持つスケジューリング全体を司るスーパースケジューラ、下位の個々の計算資源において資源制御・資源保護並びにローカルスケジューリングを行うグリッドVM、さらにはグリッドにおける計算資源・ネットワーク・ソフトウェア並びにユーザ等のアカウンティングを行い、それを統合的に管理する分散情報サービス等の研究開発を行います。

グリッドプログラミング環境

テーマ　●グリッドRPCシステム　●グリッドMPIシステム

研究内容　グリッドRPCシステムでは、遠隔計算機上でライブラリ関数を呼び出すモデルに基づき、数10から数100CPU規模の複数のクラスタを利用するグリッドアプリケーションの容易な開発と高い実行効率を可能とするシステムの研究と開発を行います。グリッドMPIシステムでは、グリッド上での通信遅延を考慮した高性能かつインターオペラブルな通信を実現するためにTCP/IPレベル及びMPIライブラリレベルでの通信ライブラリの研究開発を行います。

グリッドアプリケーション環境

テーマ　●グリッドワークフロー　●グリッドPSE　●グリッド可視化システム

研究内容　グリッド環境上でアプリケーションを簡単かつ効率的に動かす仕組みが重要となります。そのためにジョブの実行制御を操作性の良いGUIで簡単に記述できるワークフローツール、研究者が開発したアプリケーションをグリッド環境上へ配置、研究コミュニティでの共有のための登録を支援するグリッドPSE(Problem Solving Environment)及び計算結果をグリッド上で視覚化するためのグリッド可視化システムの研究開発を行います。

データグリッド環境

テーマ　●データグリッド基盤技術　●データベース検索制御技術　●メタデータ構成技術

研究内容　インターネット上に散在する多数のデータベースを、グリッド環境下で仮想的にまとめて利用可能にする技術について研究･開発を行います。WSRFベースのOGSAを基盤としてデータ資源の管理や探索の機構を開発するデータグリッド基盤技術、多数のデータベース検索により引き起こされる組合せ爆発を抑えるための検索制御技術、異分野のデータベース間を意味的に関連付けるためのメタデータ構成技術などの研究開発を行います。

ネットワーク&セキュリティ基盤

テーマ　●ネットワーク通信基盤技術　●セキュリティ・認証基盤技術

研究内容　NAREGIが目指すグリッドで必要な、ネットワーク通信基盤技術とセキュリティ及び認証基盤の研究開発を行います。具体的にはグリッド計算のためのネットワーク機能基盤技術に関して、ネットワークトラフィックの計測に基づく最適な経路・バックアップ用多重化経路の制御技術、グリッド上でのファイル転送に最適化された通信プロトコル、複数の組織をまたがる認証基盤の研究開発を行います。

ナノアプリケーションのグリッドへの対応

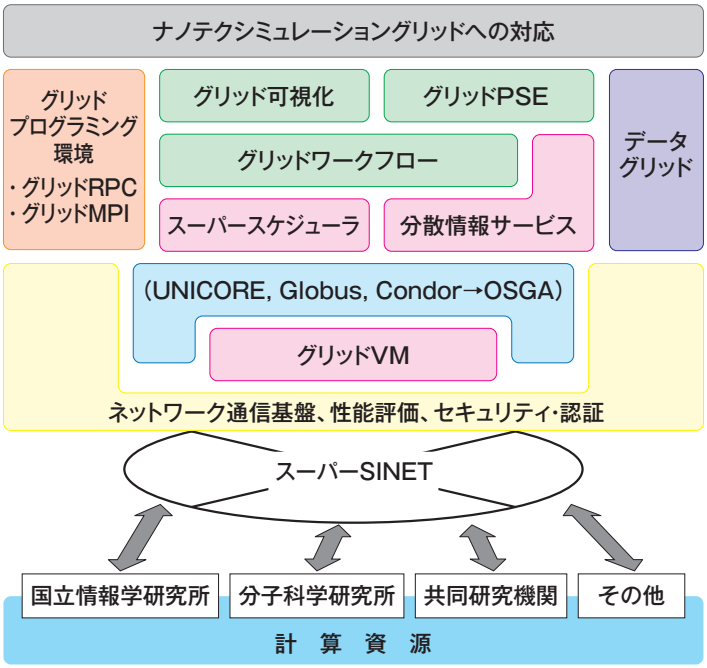
テーマ　●ナノアプリの並列化・分散化等によるグリッド対応

研究内容　ナノサイエンス実証研究拠点が開発しているナノ分野アプリケーションのグリッド対応化を行うとともに、ナノ分野連成ミドルウェアの開発とグリッド環境における応用研究を行います。また、グリッドアプリケーション環境の研究開発と連携協力し、グリッド上におけるナノ分野アプリケーションの実行環境を整備します。

グリッドミドルウェアの利活用技術の研究

テーマ　●APIの研究開発　●異種グリッド相互利用技術の研究開発

研究内容　ITBL(IT-Based Laboratory)プロジェクトにおいて構築された実運用グリッド環境の資産を、次世代スパコンを頂点とする次世代の研究グリッドインフラに円滑に継承するため、アプリケーションプログラミングインターフェースの研究開発、および異なる複数のグリッドミドルウェアの利活用が円滑にできるようにするための相互利用技術の研究開発を行います。



NAREGIプログラム共同研究機関

●**産**：富士通株式会社
株式会社日立製作所
日本電気株式会社
スーパーコンピューティング技術産業応用協議会
(製薬、化学、金属・材料企業 等)

●**学**：**グリッド研究開発推進拠点**
東京工業大学、大阪大学、
九州大学、九州工業大学等

アプリケーション研究開発拠点
東京大学、京都大学、東北大学、
KEK物質構造科学研究所
産業技術総合研究所
日本原子力研究開発機構

問合せ先／グリッド研究開発推進拠点(リサーチグリッド研究開発センター)
TEL 03-4212-2857　FAX 03-4212-2803　URL http://www.naregi.org/

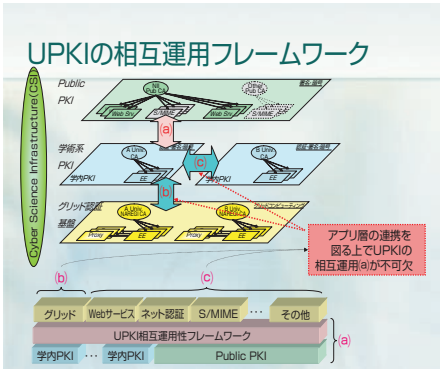
全国大学共同電子認証基盤（UPKI）の構築

UPKIの構築計画

最先端学術情報基盤（サイバー・サイエンス・インフラストラクチャ：CSI）を安全安心に構築・利用するためには、電子認証基盤の整備が重要になってきます。

全国大学共同電子認証基盤（UPKI: University Public Key Infrastructure）は、各大学等が構築した認証基盤を連携し、相互に認証を可能とするものです。これにより、安全安心に大学間の連携を進めることが可能となります。このための、UPKIによる連携のスキームポリシーの策定・公開や、大学間連携に必要なアプリケーション技術の開発は、現在、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、東京工業大学、高エネルギー加速器研究機構を中心として、各大学からのご意見やご要望を基に進めています。

各大学等で構築され、WTCA（Web Trust for CA）の認定を受けていない学内等の認証基盤は、ローカルな認証には使用できますが、Publicな認証局ではないため、外部との認証には利用できません。そこで、UPKIでは大学間の認証基盤連携を実施するとともに、学外でも通用するPublic証明書の利用もあわせて進めることとしています。Public証明書は、各大学等で運用するWebサーバや、S/MIMEを利用した電子メールのデジタル署名や暗号化での利用を検討しています。

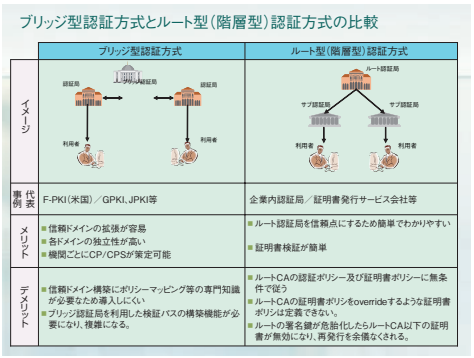


UPKIの認証方式の比較検討

認証局の連携方式には、ブリッジ型方式、ルート型認証方式等いくつかの方式が存在しています。

UPKIは、各大学において構築された認証局間の連携を、いかにスムーズかつ容易に行えるかが課題であるため、これについては海外の事例調査等も実施し検討しています。

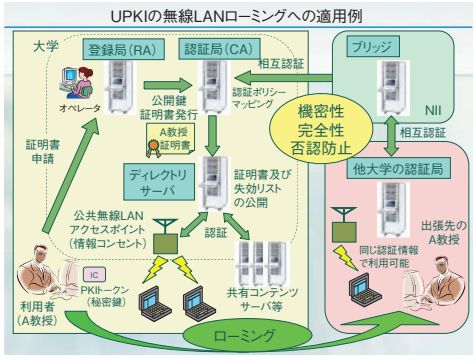
平成18年度は、UPKI相互運用フレームワークの制定を実施して、各大学が認証システムを導入する際に参考となる事例、仕様、ノウハウの情報共有と公開を行います。



UPKIのアプリケーション例

大学間連携のためのアプリケーションとして、大学間の無線LANローミング、大学が提供するWebサービスへのSSO（シングル・サインオン）、単位互換等のための学務システムの連携、ユビキタスVoIP等の検討を進めています。

右図は、UPKIの無線LANローミングへの適用例で、他大学へ出張したA教授が、出張先の大学からUPKIの認証を利用し、無線LANのローミングにより、自大学のLANを安全安心に利用している様子を示しています。



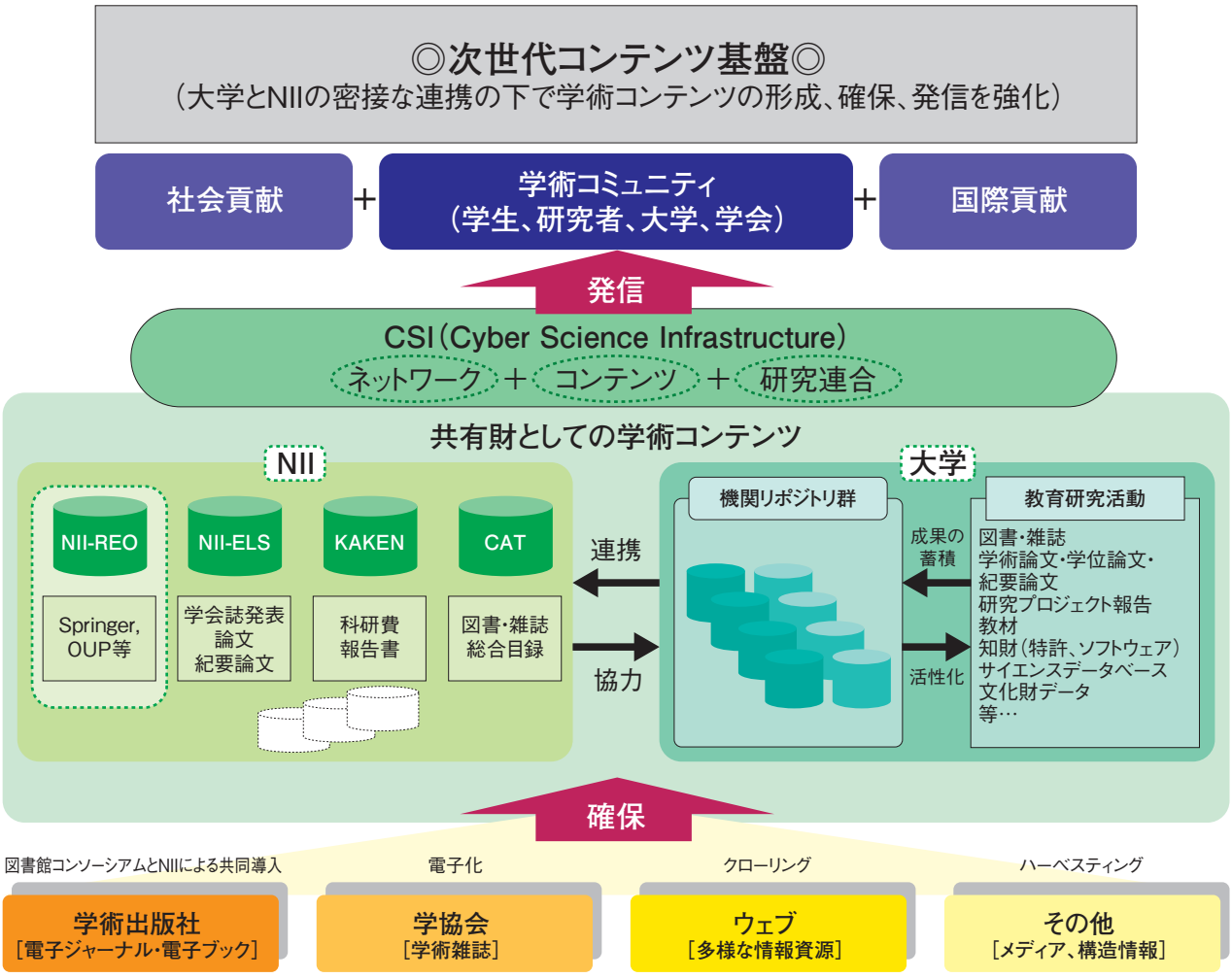
問合せ先／企画調整課 連携システム推進室
TEL 03-4212-2213　FAX 03-4212-2230　E-Mail:upki@nii.ac.jp

次世代学術コンテンツ基盤の整備

次世代学術コンテンツ基盤の整備

国立情報学研究所では、最先端学術情報基盤(サイバー・サイエンス・インフラストラクチャ:CSI)の整備を進めています。CSIは、「コンピュータ等の設備、基盤的ソフトウェア、コンテンツ及びデータベース、人材、研究グループそのものを超高速ネットワークの上で共有する」ための基盤であり、我が国の学術研究・教育活動を促進し、その国際競争力を維持するためには、こうした最先端の学術情報基盤を早急に実現することが求められています。

次世代学術コンテンツ基盤は、CSIを構成する主要な柱のひとつであり、学術コミュニティにとって不可欠な学術コンテンツを確保し、その安定的な提供を保証するとともに、大学や研究機関等で生み出された教育研究成果を収集、組織化し、付加価値を付けて広く社会に発信するための情報基盤です。



国立情報学研究所は、これまで大学や学協会と協力して様々な学術コンテンツの形成に貢献してきました。これらのコンテンツは、図書・雑誌の目録情報、科研費成果報告、国内学協会と共に形成した論文の全文情報や大学の紀要の全文情報、そして大学図書館コンソーシアムと共同購入したSpringer、Oxford University Press等の出版社の遡及的な電子ジャーナル全文情報などを挙げることができます。

こうした従来の事業を継承し、次世代学術コンテンツ基盤の整備を推進するための組織として、国立情報学研究所は、大学等の研究機関と連携して学術コンテンツ運営・連携本部を設置しました。今後は、本運営・連携本部を中心として、学術コミュニティが必要とする多様なコンテンツの確保と大学等で生産された貴重な学術情報の発信を強化するための事業を展開していきます。

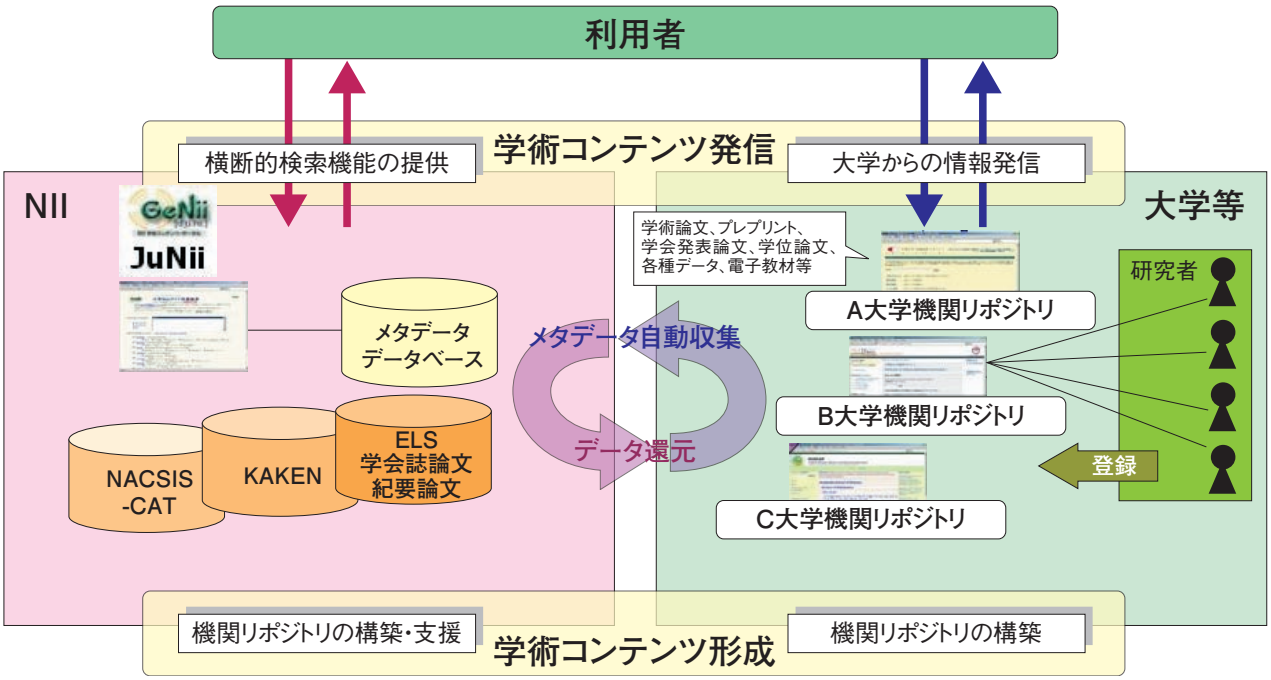
学術機関リポジトリの連携・支援

http://www.nii.ac.jp/irp/

次世代学術コンテンツ基盤構築を実現するため、大学と国立情報学研究所が共同で確保すべき多様な学術コンテンツの中で、特に大学の教育研究活動の成果である学術情報の収集、組織化、保存及び発信のための仕組みとして、近年、「機関リポジトリ」が注目されています。

機関リポジトリとは、大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービスです。

国立情報学研究所では、これまでのコンテンツ関連事業の成果を継承、拡充させ、次世代学術コンテンツ基盤の整備に資するために、各大学における機関リポジトリの構築とその連携を支援しています。



問合せ先／コンテンツ課 学術情報形成第二係
TEL 03-4212-2350　FAX 03-4212-2370　E-mail:iradm@nii.ac.jp

JuNii（大学情報メタデータ・ポータル）

http://ju.nii.ac.jp/

■日本の大学、研究機関等がインターネット上に発信している教育・研究成果を始めとした大学発信のコンテンツ情報を集約、提供しています。

■収録状況（平成18年3月末）	8万件

問合せ先／コンテンツ課 JuNii担当
TEL 03-4212-2300　FAX 03-4212-2375　E-mail:metadb@nii.ac.jp

国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC/JAPAN)

http://www.nii.ac.jp/sparc/

背景

学術研究の推進のためには、研究成果が学術論文によって迅速に流通し、研究者・学生が最新の研究成果を常に利用できることが重要です。また、これらの学術論文の刊行状況は、それぞれの国、それぞれの分野における研究活動を集団、個人について評価するための重要な指標です。

欧米においては、学術コミュニケーションの変革運動として、SPARC(Scholarly Publishing & Academic Resources Coalition:学術出版・学術資源連合)が、大学図書館を中心に活動し、高額商業学術雑誌に対抗する新たな学術コミュニケーションモデル生成のための取り組みを推進しています。

とくに、近年は研究成果への障壁なきアクセスを目指す「オープン・アクセス」モデルの実現の下に、広報・啓発活動や機関リポジトリの構築支援を積極的に進めています。

活動

本事業は、日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子化・国際化を強化することによって、学術情報流通の国際的基盤の改善に積極的に寄与するとともに、わが国の学術研究の成果の一層の普及を推進することを目的として、平成15年度から開始した事業です。

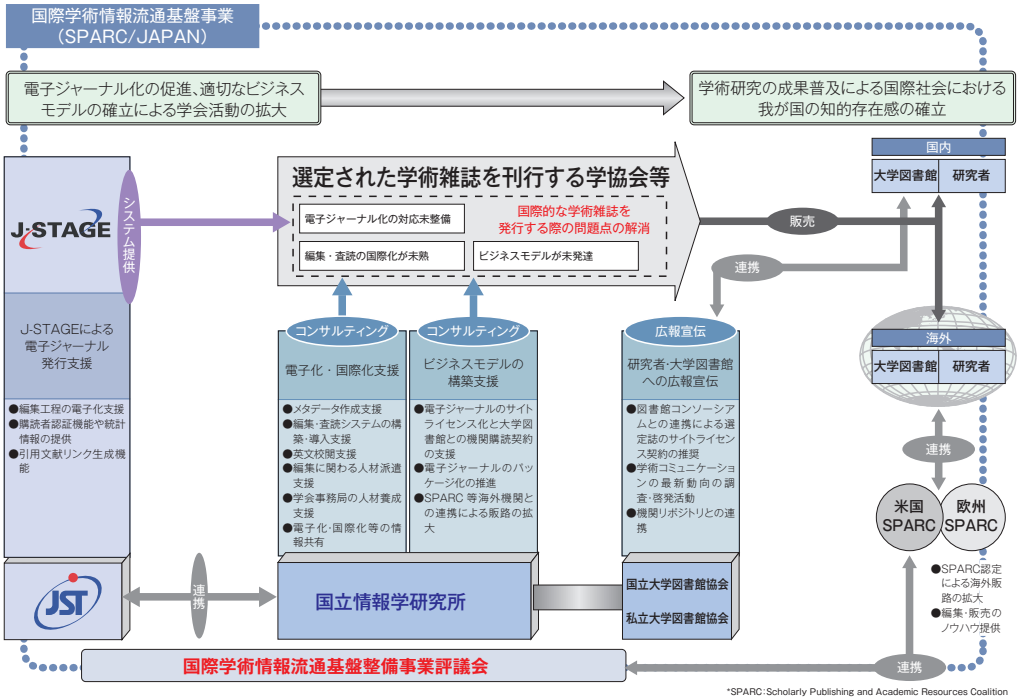
国立情報学研究所は、日本の学協会、大学図書館、科学技術振興機構(JST)、SPARC(米国)、SPARC Europeとの連携協力の下、本事業を推進し、日本の学協会が刊行する学術雑誌が国際的に高く評価され、経済的に妥当な形態で電子的な学術雑誌の刊行を維持し続けることが可能になる体制を確立することを支援します。

現在、国際学術情報流通基盤整備事業への参画学会誌として28学協会(機関)34タイトルの英文学術雑誌を選定し、支援活動を実施しています。

生物学系や数学系の選定誌のように、BioOneやProject EuclidといったSPARC(米国)が支援するパートナーとの連携や大学図書館とのサイトライセンス契約を実現するという成果を挙げています。

その他の学協会誌についても、電子ジャーナル化方策の調査、電子投稿・査読システムの開発・導入、最適なビジネスモデルの検討、電子ジャーナル・オンリーの新雑誌創刊の企画支援など、多岐にわたる取り組みが行われています。

このような学協会誌の支援活動と並行して、SPARC(米国)との相互連携の覚書締結に基づき、研究者、学協会、大学図書館への広報・啓発活動として、学術コミュニケーションが直面する問題や変革の取り組みについてセミナーやシンポジウム等を開催しています。



問合せ先／コンテンツ課 国際学術情報流通基盤整備事業推進室
TEL 03-4212-2360　FAX 03-4212-2370　E-mail:sparc@nii.ac.jp

目録所在情報サービス

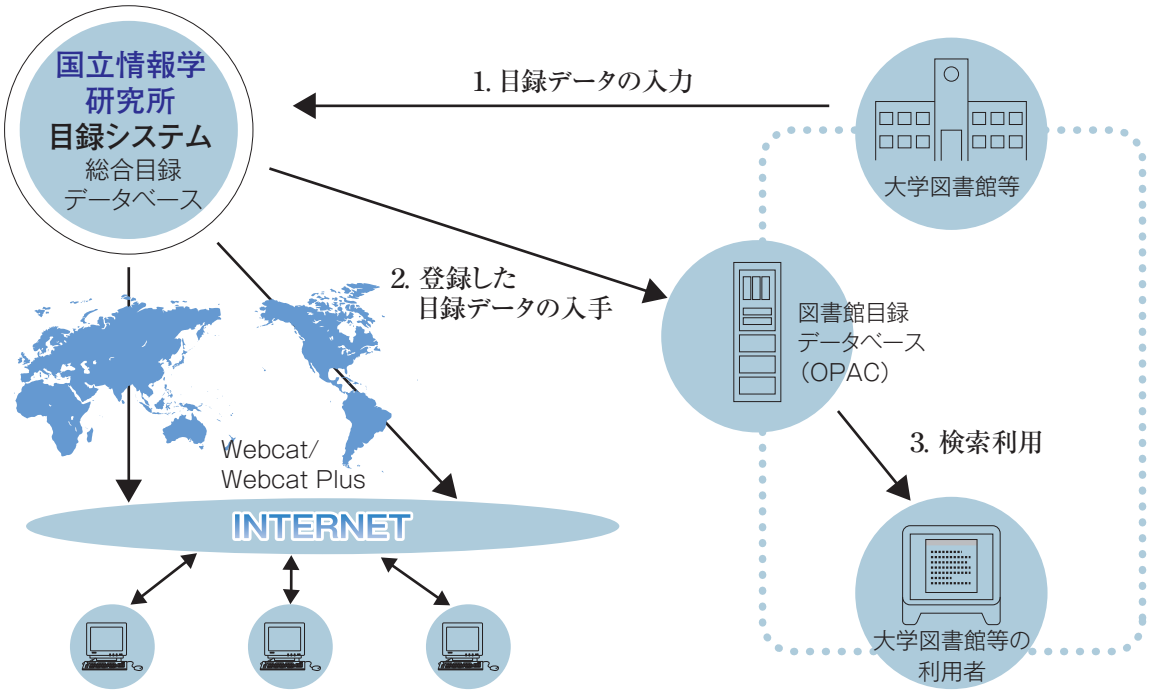
http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/

目録所在情報サービスには、目録システムとILL(図書館間相互貸借）システムがあります。

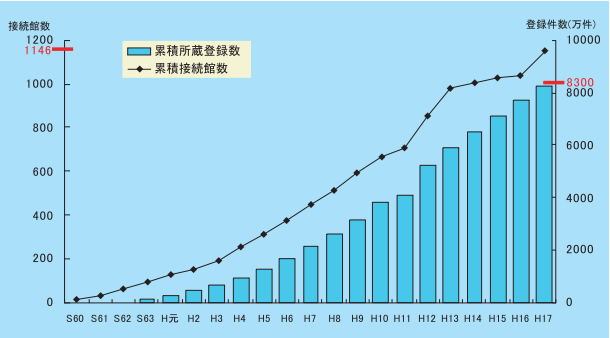
目録システム（NACSIS-CAT）

目録システム（NACSIS-CAT：CATaloging）は、研究者の研究活動を支援するため、全国の大学図書館等にどのような学術文献（図書・雑誌）が所蔵されているかが即座に分かる総合目録データベースを構築するシステムです。この目録システムでは、データベースを効率的に形成するため、標準的な目録データ（MARC）や、海外の同様の総合目録データベース（米RLG、米OCLC、ドイツHBZ）を参照する機能を備え、全国の大学図書館等によるオンラインの共同分担入力が行われています。

このようにして構築された総合目録データベースは、WWW検索サービス（Webcat/Webcat Plus）で誰でも自由に利用できます。



■接続館数及び所蔵登録件数の推移（平成18年3月末）



■参加機関数（平成18年3月末現在）

参加機関数	1,146
国内	1,073
（大学：675、短大：141、高専：59、大学共同利用機関：15、その他：183）	
海外	73
（アジア：48、ヨーロッパ：23、北米：2）	

■Webcat検索利用回数（H17.4～H18.3）

17,644千回

http://webcat.nii.ac.jp/

問合せ先／コンテンツ課 目録情報管理係
TEL 03-4212-2310　FAX 03-4212-2375　E-mail：catadm@nii.ac.jp

NACSISとは、国立情報学研究所(NII)の前身である学術情報センター(NACSIS:National Center for Science Information Systems)のことです。サービスの名称として、現在でも使っています。

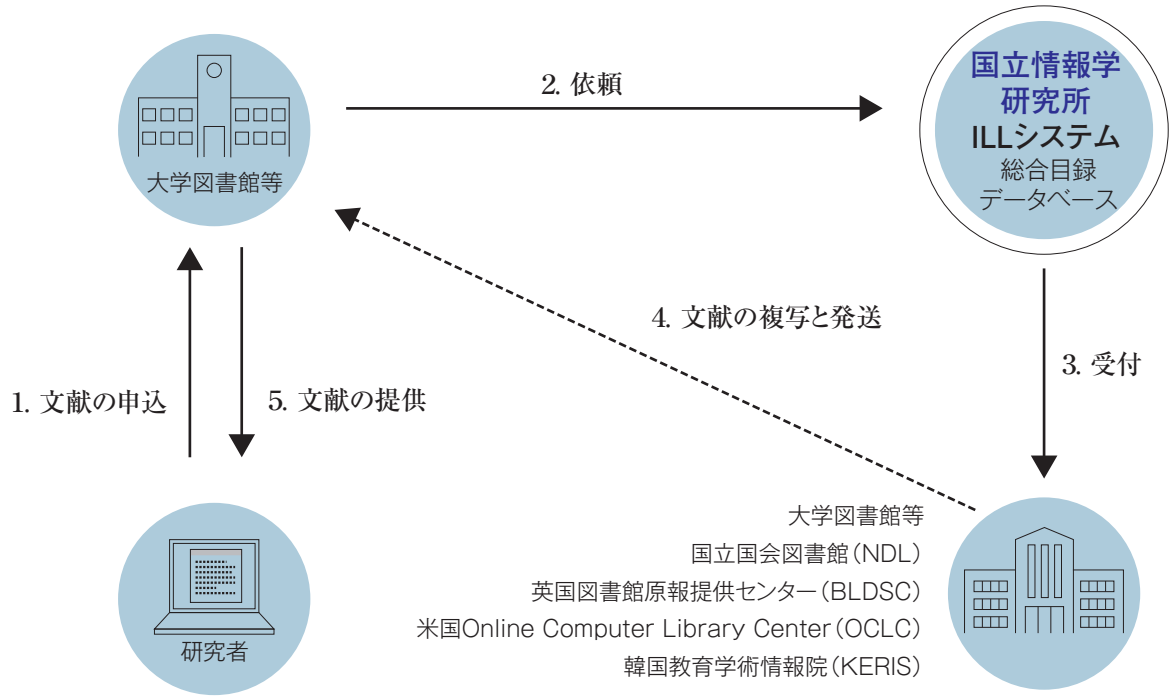
ILL(図書館間相互貸借)システム(NACSIS-ILL)

ILLシステム(NACSIS-ILL:InterLibrary Loan)は、大学等の研究者に学術文献を提供するため、図書館間で図書や雑誌論文を相互に利用し合うための連絡業務を支援するシステムです。

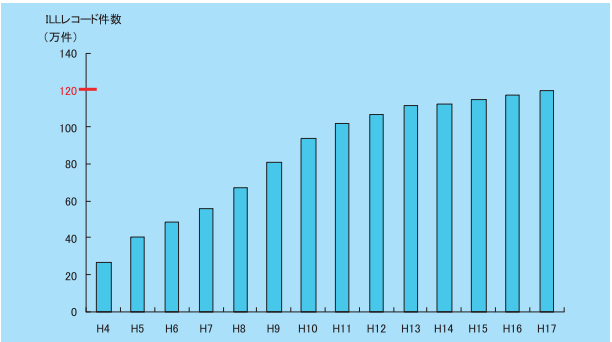
目録システムで構築される最新の総合目録データベースを活用することができ、業務の効率化と利用者への文献情報提供の迅速化を図っています。

このシステムでは、国立国会図書館や英国図書館原報提供センター(BLDSC)へ文献提供の依頼もできます。また、米国OCLC、韓国KERISなど海外のILLシステムと連携しており、海外の大学図書館等との相互貸借サービスも支援しています。

平成16年度からは、ILL文献複写等料金相殺サービスを始め、図書館業務の効率化を促進しています。



■ILLシステムの利用状況(平成18年3月末)



■参加機関数(平成18年3月末現在)

参加機関数	825
ILL料金相殺サービス参加機関数	640

■グローバルILL(国際ILL/DD)参加機関

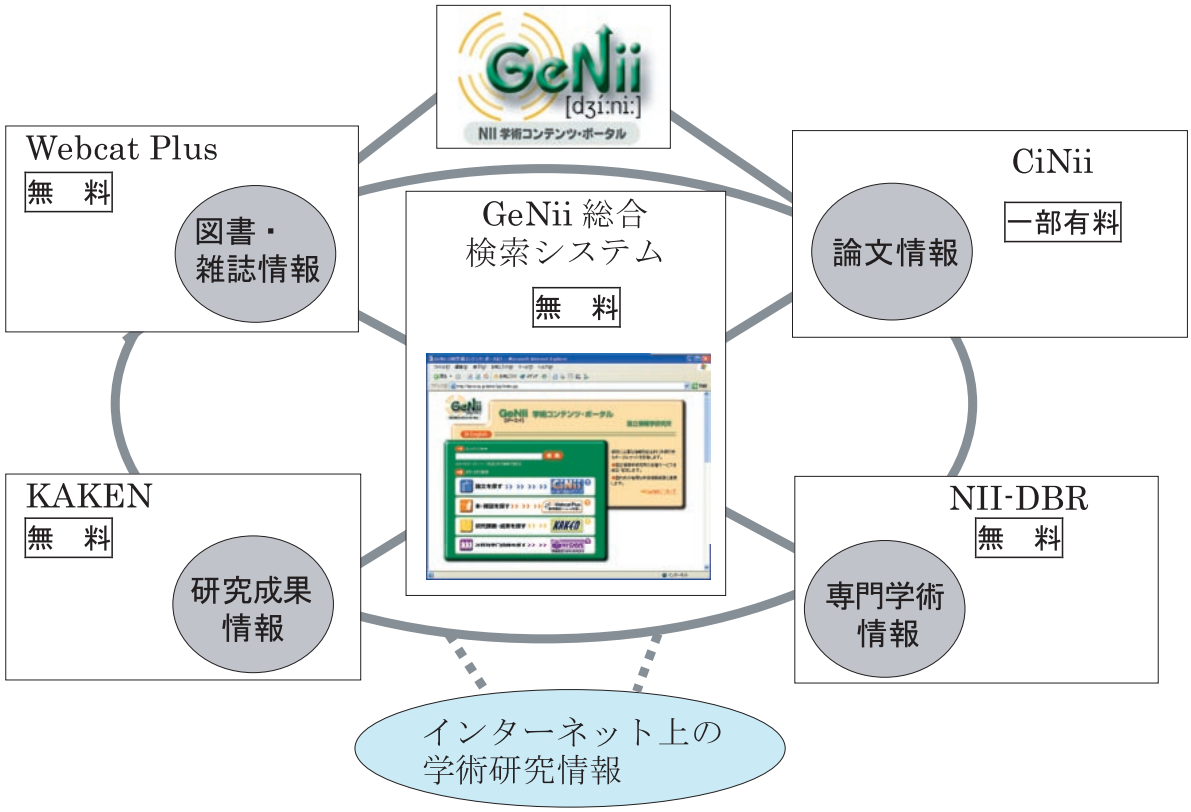
日米ILL/DD:日本側 126	米国側 50
日韓ILL/DD:日本側 89	韓国側 226

問合せ先／コンテンツ課 学術情報サービス係
TEL 03-4212-2320　FAX 03-4212-2375　E-mail:illadm@nii.ac.jp

GeNii(NII学術コンテンツ・ポータル)

http://ge.nii.ac.jp/

GeNii(ジーニイ：NII学術コンテンツ・ポータル)は、国立情報学研究所が大学図書館や学協会、研究者との協力の下に構築してきた学術コンテンツを、統合的に提供するポータルサービスです。
現在GeNiiは(1)図書・雑誌情報(2)論文情報(3)研究成果情報(4)専門学術情報の4つのコンテンツサービスで構成しています。それぞれのコンテンツの特長を生かした個別の検索機能を提供するほか、全てのコンテンツを総合的に検索できる「GeNii 総合検索システム」により、それぞれの利用者を、必要な学術情報へ適切にナビゲートします。



問合せ先／コンテンツ課 GeNii担当
TEL 03-4212-2300　FAX 03-4212-2375　E-mail:geniiadm@nii.ac.jp

CiNii(サイニイ：NII論文情報ナビゲータ)

http://ci.nii.ac.jp/

■日本の学術論文を中心にした論文情報の提供サービスで、本文や引用文献へのナビゲーション機能を持っています。
■基本的な論文検索は、インターネットで自由に利用できますが、引用情報を含む書誌の詳細情報や、電子図書館の有料コンテンツを利用するためには利用登録が必要になります。
■Thomson Scientific社 のCitation Index(Science Citation Index Expanded、Social Sciences Citation Index、Arts & Humanities Citation Index)も提供しています。(Citation Indexの利用資格には一部制限があります。)
■NII電子ジャーナルリポジトリに搭載されている論文情報など収録範囲の拡充に併せ、医学中央雑誌の医中誌Webなど、他機関のデータベースサービスとの連携を進めています。
■引用文献へのナビゲーションを強化するため、リンクリゾルバーやCrossRefへの対応を検討しています。

■搭載コンテンツと収録件数(平成18年3月末)

コンテンツ		収録件数	本文リンク
NIIの引用文献索引データベース(CJP)		書誌 110万件 引用1,140万件	
NIIの電子図書館コンテンツ(NII-ELS)	学協会誌	書誌／抄録／本文 240万件	あり
	大学の研究紀要等	書誌／抄録／本文 65万件(うち本文あり20万件)	一部あり
国立国会図書館の雑誌記事索引		書誌 680万件	

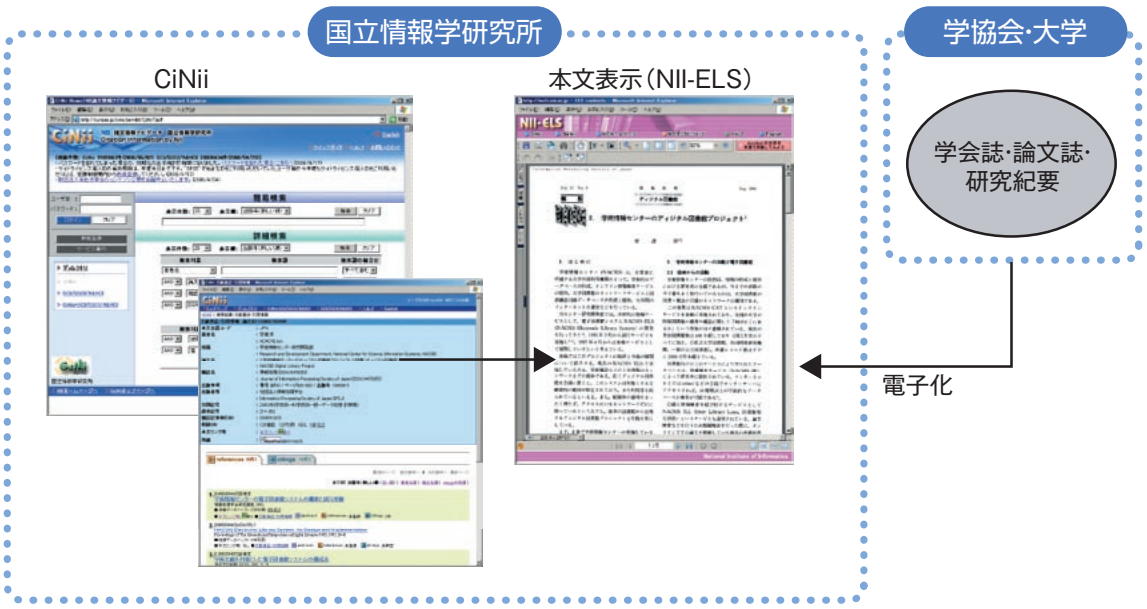
NII電子図書館(NII-ELS)

■NII電子図書館(NII-ELS)は、日本の多くの学協会の発行する学術雑誌や大学等で刊行する研究紀要を、ページイメージで電子化し、論文コンテンツとして蓄積しています。CiNii(NII論文情報ナビゲータ)から、検索・本文の利用が可能です。新しく出版された論文だけでなく、過去の論文も遡及的に電子化することで、デジタルアーカイブにふさわしい十分なコンテンツを収録しているのも特徴です。

■収録状況(平成18年3月末)

参加組織数	雑誌数	掲載論文数
1,200(うち学協会 270)	2,200(本文あり)	260万(本文あり)

問合せ先／コンテンツ課 学術情報形成第一係
TEL 03-4212-2340　FAX 03-4212-2370　E-mail:els@nii.ac.jp



問合せ先／コンテンツ課 CiNii担当
TEL 03-4212-2300 FAX 03-4212-2375 E-mail:ciniiadm@nii.ac.jp

GeNii（NII学術コンテンツ・ポータル）

http://ge.nii.ac.jp/

Webcat Plus（ウェブキャット・プラス）

http://webcatplus.nii.ac.jp/

■「連想検索機能」により漠然としたテーマからでも関連する図書の検索が可能です。
■全国の図書館等が所蔵している図書・雑誌の「総合目録データベース」を中心に、日本語図書・英語図書の目次や内容紹介のデータを搭載しています。
■大学図書館等の所蔵している資料のほか、図書館未所蔵の市販図書も併せて検索することができます。

■収録状況（平成18年3月末）

図書	雑誌
1,200万件	29万件

問合せ先／コンテンツ課 Webcat Plus担当
TEL 03-4212-2300　FAX 03-4212-2375　E-mail:webcatplus@nii.ac.jp

KAKEN（科学研究費成果公開サービス）

http://seika.nii.ac.jp/

■文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費補助金により行われた研究の当初採択時の課題情報（採択課題）と研究成果の概要情報（研究実績報告、研究成果概要）を提供しています。
■我が国における最新の研究情報を調べることができます。
■研究分野や研究種目毎のカテゴリ表示により一覧表示することができます。

■収録状況（平成18年3月末）　52万件

問合せ先／コンテンツ課 KAKEN担当
TEL 03-4212-2300　FAX 03-4212-2375　E-mail:seika_adm@nii.ac.jp

NII-DBR（学術研究データベース・リポジトリ）

http://dbr.nii.ac.jp/

■日本の学会や研究グループ等で作成された専門分野に特化したデータベースを集約し,公開しています。
■各データベースを個別に検索できるほか,複数のデータベースを横断的に検索することができます。

■収録状況（平成18年3月末）　27データベース 150万件

問合せ先／コンテンツ課 NII-DBR担当
TEL 03-4212-2300　FAX 03-4212-2375　E-mail:dbr@nii.ac.jp

NII電子ジャーナルリポジトリ（NII-REO）

http://reo.nii.ac.jp/

■NII電子ジャーナルリポジトリは、安定・継続的な電子ジャーナルの提供を目的として、大学図書館コンソーシアムとの連携の下に、電子ジャーナルコンテンツを保管し、利用提供するものです。コンテンツの利用条件は、各出版者の契約に基づいています。

■収録状況（平成18年3月末）

出版社	タイトル数	論文数	収録年
IEEE Computer Society	約25	約13万件	2004−
Oxford University Press	約150	約13万件	1998−2003
Kluwer Academic Publisher	約500	約35万件	1997−2005
Springer Science+Business Media	約800	約160万件	(1850)−1996

問合せ先／コンテンツ課 学術情報形成第一係
TEL 03-4212-2340　FAX 03-4212-2370　E-mail:reo@nii.ac.jp

オンライン学術用語集

http://sciterm.nii.ac.jp/

学術用語の意味の定義や用法等について、研究者間で共通の認識のため、各学問分野で学術用語の標準化が進められており、その成果は『学術用語集』として刊行されています。「オンライン学術用語集」では、『学術用語集』に収録されている学術用語を著作権者である文部科学省と各学協会の許諾を得て、インターネットを通じて無料で検索できるようにしています。

■収録状況（平成18年3月末）

収録編数	収録用語数
22編	12万8千語

問合せ先／コンテンツ課 学術ポータル係
TEL 03-4212-2330
FAX 03-4212-2375
E-mail:sciterm@nii.ac.jp

学協会情報発信サービス

http://wwwsoc.nii.ac.jp/

学協会情報発信サービスは、日本国内の学協会等の学術研究情報を収集し、インターネットを通じて広く情報発信することにより、我が国の学術研究を支える重要な研究者コミュニティである学協会の活動を支援することを目的としたサービスです。キーワードによる検索サービスなどにより、効率的に探し出すことができ、学問、教育・研究及び文化のポータルサイトとして各メディア等で紹介される等、有益な情報源として評価されています。

■収録状況（平成18年3月末）

参加学協会数
956学会

問合せ先／コンテンツ課 学術情報形成第一係
TEL 03-4212-2340
FAX 03-4212-2370
E-mail:wwwsoc@nii.ac.jp

教育研修事業

国立情報学研究所では、大学等において日本の学術情報基盤を支える人材の育成に積極的に取り組むため、教育研修事業を実施しています。

講習会

目録所在情報サービス業務担当者を対象に、データベース内容や運用方法の修得を目的として開催しています。

■目録システム講習会(図書コース・雑誌コース)
総合目録データベース(NACSIS-CAT)の構成、内容、データ登録の考え方(入力基準)及び運用方法等を理解する

また、受講機会の拡大を図るため、各大学図書館との共催による地域講習会も開催しています。

■ILLシステム講習会
図書館間相互貸借システム(NACSIS-ILL)の構成、内容等に関する知識、及び運用方法等を修得する

専門研修

大学等の学術研究機関において学術研究活動支援の中心的役割を担う職員を養成するため、必要となる専門的知識や技術の修得を目的として開催しています。

■総合目録データベース実務研修
目録所在情報サービス参加機関の目録関連業務において中心的役割を担い、併せて目録及びILLシステム講習会講師を担当しうるスキルを修得する

■学術ポータル担当者研修
情報発信・学術ポータル構築・管理運用に係る専門的な知識と技術を修得する

■学術情報リテラシー教育担当者研修
学術情報リテラシー教育において中心的役割を担うための知識を修得する

■大学図書館職員講習会
大学図書館等の中堅職員に相応しい図書館業務の最新の知識及び専門的技術を修得する

■情報処理軽井沢セミナー
学術研究活動を支援する要員となるため、高度化する学術情報基盤の環境に対応できる情報処理の最新の技術と理論等を修得する

■情報セキュリティ担当者研修
情報セキュリティ・情報保護に係る基礎知識を修得する

学術情報リテラシー教育担当者研修(大阪大学会場)

■ネットワークセキュリティ担当者研修
ネットワーク上の脅威に対する適切な対応をとるための実用的なセキュリティの技能を修得する

■ネットワーク管理担当者研修
LANの運用管理に必要な基礎的知識・技術を修得する

■国立情報学研究所実務研修
研究所の実務を経験することにより、学術研究活動支援の中心的役割を担うための、高度の学術情報システムの環境に対応しうる知識を修得する

大学等主催講習会支援事業

研究所の各サービスに関して大学等が独自に実施する講習会、説明会等に対して、資料の提供やプログラム相談及び利用者番号貸与等の支援を行っています。

他機関との連携

各関係機関との協力により、学術研究活動支援の中心的役割を担う人材育成を目的とした、各種の研修を実施しています。

問合せ先／企画調整課 研修係
TEL 03-4212-2177　FAX 03-4212-2230　E-mail:edu@nii.ac.jp

研究協力・知的財産

国立情報学研究所では、科学研究費補助金、民間機関等との共同研究、受託研究等の外部資金による研究を積極的に進めるとともに、知的財産の創出・取得・管理を行い、知的財産の活用による社会貢献を推進しています。

研究協力

■科学研究費補助金（平成18年3月現在）

研究種目	件数	交付決定額（千円）
基盤研究(A)	5	64,480
基盤研究(B)	11	46,900
基盤研究(C)	6	6,600
萌芽研究	4	8,500
若手研究(A)	5	33,540
若手研究(B)	13	19,900
特定領域研究	14	292,760
特別研究員奨励費	4	3,700
研究成果公開促進費	4	60,000
計	66	536,380

■科学技術振興調整費	3	230,233千円

■産学官連携による受入（平成18年3月現在）

	件数	受入決定額（千円）
民間機関等との共同研究	5	37,095
受託研究	20	174,027
寄附金	16	24,512

■共同研究

国立情報学研究所は、大学共同利用機関として、全国の国公私立大学等の研究者に交流、研究の場を提供するため、公募による共同研究を積極的に行っており、平成18年3月現在、136件の共同研究を実施しています。

■各種研究員等の受入数（平成18年3月現在）

区分		人数
外来研究員	（外国人研究員）	7
	（日本学術振興会外国人特別研究員）	5
	（その他）	3
民間等共同研究員		3
受託研究員		1
技術補佐員	（研究支援推進員）	5
プロジェクト研究員	（非常勤研究員）	6
	（科学研究支援員）	6
	（科学技術振興研究員）	26
	（産学連携研究員）	27
リサーチアシスタント		45
特別共同利用研究員		17
計		151

問合せ先／研究協力課 研究協力係
TEL 03-4212-2105　FAX 03-4212-2120　E-mail:kenkyou@nii.ac.jp

知的財産

■発明届出件数及び特許出願件数（平成18年3月現在）

届出件数	帰属		特許出願件数
	機構帰属とされたもの	個人帰属とされたもの	
20件	20件	0件	15件

■大学共同利用機関知的財産本部

大学等における知的財産の創出、取得、活用を戦略的に実施する体制整備の支援を目的とした、平成15年度文部科学省委託事業「大学知的財産本部整備事業」に、13の大学共同利用機関が連合した形で当国立情報学研究所を代表機関として申請し採択されました。

この事業は5年間のプロジェクトで、それぞれに特徴のある大学共同利用機関の知的財産を活かすため、各大学共同利用機関法人に知的財産本部を整備し、知的財産の活用等について積極的に推進していきます。

大学共同利用機関知的財産本部整備事業参加機関

人間文化研究機構
　国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館
自然科学研究機構
　国立天文台、核融合科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所
高エネルギー加速器研究機構
　素粒子原子核研究所、物質構造科学研究所
情報・システム研究機構
　国立極地研究所、国立情報学研究所、統計数理研究所、国立遺伝学研究所

問合せ先／知的財産本部
TEL 03-4212-2125　FAX 03-4212-2187　E-mail:chizai-staff@nii.ac.jp

国際交流

国立情報学研究所では、平成15年1月、グローバル・リエゾンオフィス(GLO)を設置し、海外の大学・研究機関との国際研究交流について、研究所全体で組織的に推進しています。GLOでは、国際交流協定(MOU)の締結、その他国際研究交流を推進するための様々な施策を実施しています。

国際交流協定(MOU)

国立情報学研究所では、海外の大学・研究機関と国際交流協定(MOU)の締結を積極的に推進しており、MOU締結機関との間においては、国際的な共同研究の実施、研究者・学生の交流、セミナー・シンポジウムの開催など、様々な交流活動を実施しています。

また、締結機関との間の教員・研究者・学生の派遣及び招へいにあたっては、「MOU Grant」「NII国際インターンシッププログラム」などの制度により、所要の支援を行っています。

平成18年4月現在、MOUを締結している大学・研究機関は、アジア・北米・ヨーロッパ地域12か国の36件に上っています。

(研究協力に関するもの)	
中華人民共和国	清華大学
	中国科学院計算数学及び科学工学計算研究所
タイ王国	チュラロンコン大学
	アジア工科大学
	カセサート大学
	NECTEC
ベトナム社会主義共和国	ハノイ工科大学マルチメディア情報･応用国際研究センター(MICA)
	ハノイ工科大学
	ベトナム国立大学(ホーチミン)
バングラデシュ人民共和国	ダッカ大学
アメリカ合衆国	ミシガン大学計算機・情報科学科
	ワシントン大学(シアトル)工学部
	TransPAC2 プロジェクトおよびインディアナ大学
	ノースカロライナ大学シャロット校情報科学科
	メリーランド大学コンピュータ科学科
	ニュージャージー工科大学
カナダ	ウオータールー大学計算学科
フランス共和国	ナント大学ナント-大西洋計算機科学研究所(LINA)
	国立計算機科学・自動制御研究所(INRIA)
	グルノーブル国立理工科大学(INPG)
	グルノーブル第1(ジョゼフ・フーリエ)大学
	パリ第6大学コンピュータ科学科(LIP6)
	国立トゥールーズ理工科学校
	ポールサバティエ大学(トゥルーズIII)
英国	ロンドン・ユニバーシティカレッジ工学部計算機科学科
	オープン・ユニバーシティ数学・計算機科学部
ドイツ連邦共和国	アウグスブルク大学応用情報学部
	ドイツ人工知能研究センター (DFKI)
イタリア共和国	トリノ大学
チェコ共和国	チェコ工科大学
(事業協力に関するもの)	
アメリカ合衆国	北米日本研究資料調整委員会
	トムソンISI
	ARL (Association of Research Libraries)
ドイツ連邦共和国	ノルトライン-ヴェストファーレン州大学図書館センター (HBZ)
大韓民国	韓国教育学術情報院(KERIS)
欧州	DANTE (Delivery of Advanced Network Technology to Europe)

(平成18年4月)

「国際インターンシッププログラム」による外国人学生の受入

国立情報学研究所とMOU締結機関との学生の交流事業の一環として、平成17年度から「国際インターンシッププログラム」により、本研究所における外国人学生の受入を実施しています。

国際インターンシッププログラムは、本研究所と国際交流協定(MOU)を締結している大学・研究機関所属の大学院学生(修士・博士課程)を、本研究所の研究教育職員が、研究課題に応じて2か月から6か月の範囲内で受け入れ、研究に従事させ、併せて研究指導を受ける機会を与えることを目的としています。

平成17年度は、中国、タイ、ベトナム、フランス、ドイツ、チェコ計6か国のMOU締結機関に所属する17名のインターン学生を受け入れました。

■平成17年度インターン学生の所属大学･機関名及び国名

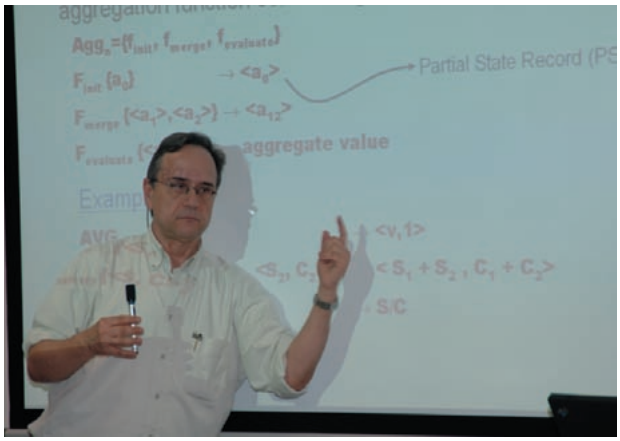
所属大学･機関名	国　名
中国科学院(2名)	中国
チュラロンコン大学	タイ
カセサート大学(2名)	タイ
アジア工科大学(3名)	タイ
ハノイ工科大学	ベトナム
アウグスブルク大学(2名)	ドイツ
ナント大学	フランス
パリ第6大学(2名)	フランス
グルノーブル国立理工科大学	フランス
グルノーブル第1(ジョゼフ･フーリエ)大学	フランス
チェコ工科大学	チェコ
合計17名	

外国人研究者の受入れ（平成17年度）

プログラム		人　数
日本学術振興会	外国人特別研究員	6
	外国人特別研究員（欧米・短期）	1
	外国人招へい研究者	1
その他受入研究者（外来研究員、客員教授（国際課））		14

■NII在外研究員等派遣（平成17年度）　2

■外国人来訪者の受入（平成17年度）　105



招へい外国人研究者（客員教授）による公開講義（平成17年度）

NII国際シンポジウムの開催

平成14年度より定期的に国際シンポジウムを開催しています。

平成17年度には平成18年3月27日に、「知的情報の流通と学術・文化の発展に向けて」をテーマとし、学術総合センター一橋記念講堂において開催しました。

第5回国際シンポジウム「知的情報の流通と学術・文化の発展に向けて」
（学術総合センター一橋記念講堂 平成18年3月27日）

問合せ先／国際課 国際企画係
TEL 03-4212-2165　FAX 03-4212-2180　E-mail:kokusai@nii.ac.jp

研究成果の普及

国立情報学研究所では、情報学に関する研究の成果を幅広く社会に還元するため、講演会・シンポジウム等の開催や出版物・広報誌の刊行などを行っています。

オープンハウスの開催

研究者、大学院入学希望者や一般の方も含めた幅広い層を対象に、研究所の諸活動や研究成果を紹介する「オープンハウス（一般公開）」を開催するなど、開かれた研究所として外部にも公開しています。

オープンハウス（平成17年6月）

シンポジウム・研究会等の開催

情報学研究について、国内外の研究者等と幅広い視点から討議するシンポジウムやワークショップを開催しています。また、情報学研究に関心のある研究者・技術者の交流の場として「NII情報学オープンフォーラム」を随時開催し、研究所内外の研究者による研究発表等を行っています。

出展

研究所の研究成果や情報サービス等について展示会等に出展し、社会への普及に努めています。

図書館総合展（平成17年11月）

問合せ先／広報普及課 成果普及係
TEL 03-4212-2145　FAX 03-4212-2150
E-mail：seika@nii.ac.jp

公開講座等の開催

一般の方を対象とした公開講座等も、随時実施しています。

国際高等セミナーハウス（軽井沢）を会場として開催している「軽井沢土曜懇話会」は、各界の著名な研究者・有識者を講師に迎え、地域密着型の事業として定着しており、講演集の刊行や講演映像のストリーミング配信など、講演記録の公開も積極的に行っています。

また、学術総合センターで夕方から開催している「市民講座―8語シリーズ―」は、情報学に関連したテーマを選び、国立情報学研究所の研究者が解説する公開講座です。

軽井沢土曜懇話会（平成17年7月）

市民講座（平成17年9月）

出版物の刊行

研究所の研究成果を図書や定期刊行物として公表します。

■Progress in Informatics

情報学における研究・開発の促進を目的とした国際査読誌として刊行しています（平成17年3月創刊）。掲載記事は、原著論文だけでなく、研究・開発の進歩に対して国際的に貢献するようなサーベイやプロジェクト報告も含みます。電子ジャーナル化を推進し、CrossRefにも参加するなど、国際的露出度の向上を図っています。

Progress in Informatics（No.2）

■NII Technical Report

研究所の研究活動に関する論文や投稿原稿、マニュアル等の研究成果を出典の明らかな形で速やかに外部へ公開するために、テクニカル・レポートを発刊しています。国立情報学研究所のホームページから参照できます。

■情報研シリーズ

一般社会人や大学生・高校生を対象に、研究所の研究及び開発・事業等の成果を踏まえ、社会的要請を勘案した広い立場からテーマを設定し、主に新書形態（丸善ライブラリー）で刊行（市販）しています。

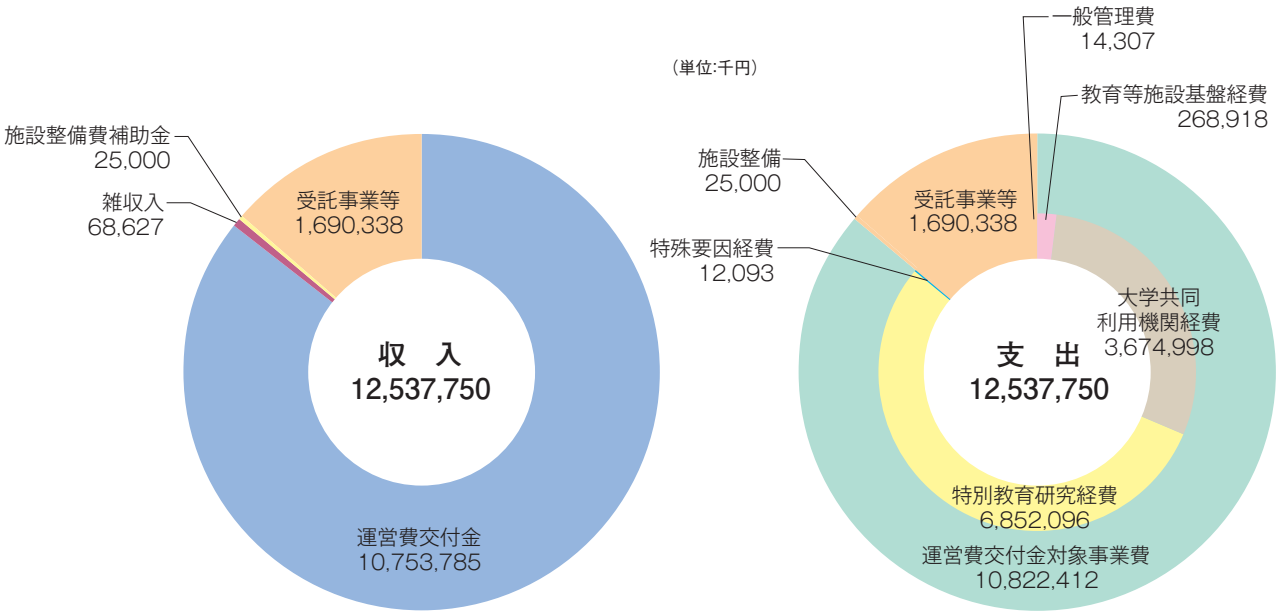
所員・予算

所員 （平成18年4月1日現在）

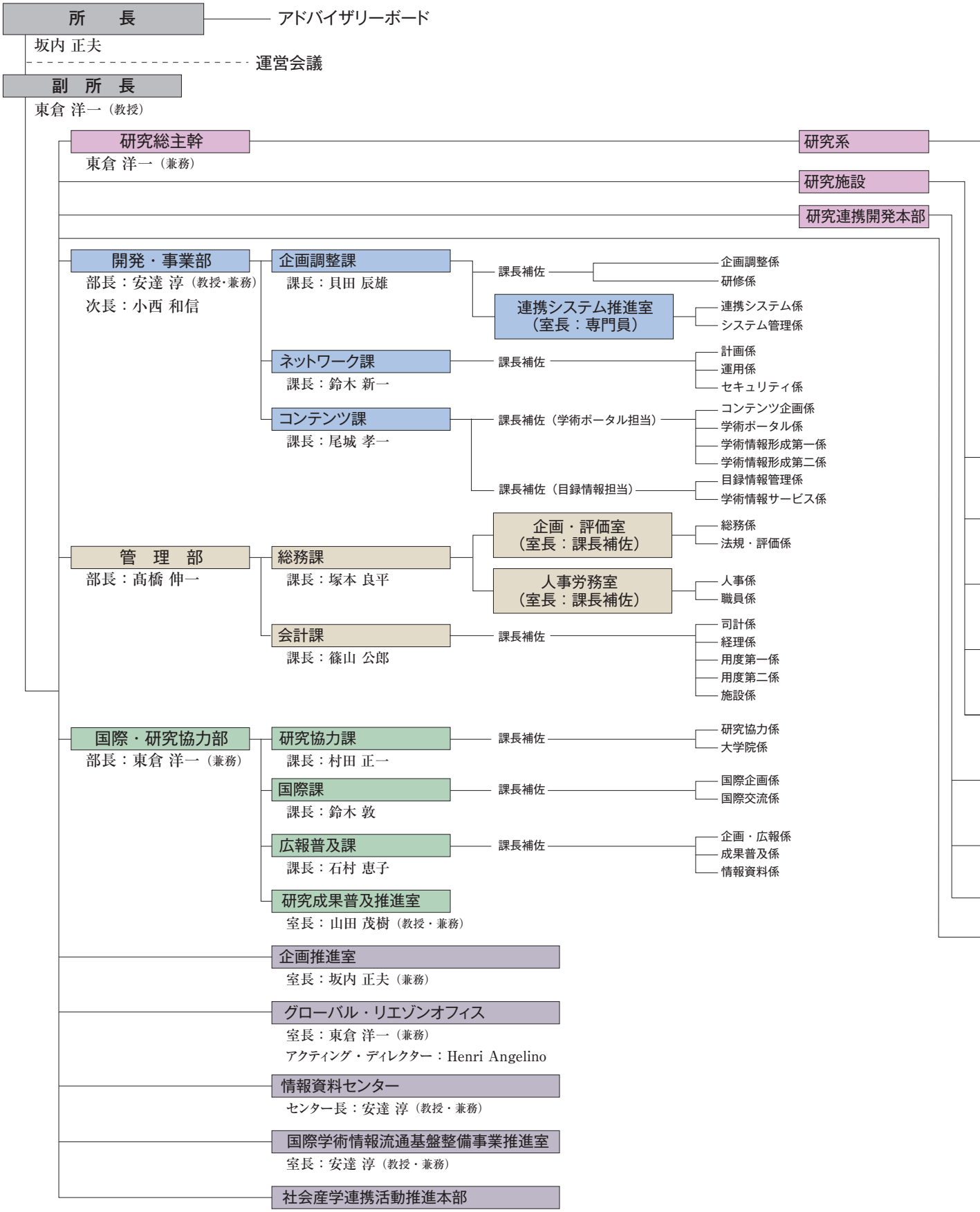
区分	所長	副所長	教授	助教授	助手	小計	事務系	計
職員	1	1	33	27	15	77	65	142
外国人客員			2			2		2
客員教授等（連携研究部門）			15	16		31		31
連携教授等（連携研究部門）			2	2		4		4
特任教授等（プロジェクト型）			7	7	1	15		15
外部研究員								93
非常勤職員								44
大学院生								119

予算 （平成18年度）

（単位:千円）



組織


所　長
坂内 正夫
アドバイザリーボード
運営会議
副 所 長
東倉 洋一（教授）
研究総主幹
東倉 洋一（兼務）
研究系
研究施設
研究連携開発本部
開発・事業部
部長：安達 淳（教授・兼務）
次長：小西 和信
企画調整課
課長：貝田 辰雄
課長補佐
企画調整係
研修係
連携システム推進室
（室長：専門員）
連携システム係
システム管理係
ネットワーク課
課長：鈴木 新一
課長補佐
計画係
運用係
セキュリティ係
コンテンツ課
課長：尾城 孝一
課長補佐（学術ポータル担当）
コンテンツ企画係
学術ポータル係
学術情報形成第一係
学術情報形成第二係
課長補佐（目録情報担当）
目録情報管理係
学術情報サービス係
管　理　部
部長：髙橋 伸一
総務課
課長：塚本 良平
企画・評価室
（室長：課長補佐）
総務係
法規・評価係
人事労務室
（室長：課長補佐）
人事係
職員係
会計課
課長：篠山 公郎
課長補佐
司計係
経理係
用度第一係
用度第二係
施設係
国際・研究協力部
部長：東倉 洋一（兼務）
研究協力課
課長：村田 正一
課長補佐
研究協力係
大学院係
国際課
課長：鈴木 敦
課長補佐
国際企画係
国際交流係
広報普及課
課長：石村 恵子
課長補佐
企画・広報係
成果普及係
情報資料係
研究成果普及推進室
室長：山田 茂樹（教授・兼務）
企画推進室
室長：坂内 正夫（兼務）
グローバル・リエゾンオフィス
室長：東倉 洋一（兼務）
アクティング・ディレクター：Henri Angelino
情報資料センター
センター長：安達 淳（教授・兼務）
国際学術情報流通基盤整備事業推進室
室長：安達 淳（教授・兼務）
社会産学連携活動推進本部

情報学プリンシプル研究系

研究主幹：藤山 秋佐夫
（教授・兼務）

教授	井上 克巳	上野 晴樹	佐藤 健	龍田 真	速水 謙	藤山 秋佐夫
	山本 喜久	武田 英明				
助教授	稲邑 哲也	宇野 毅明	河原林 健一	金沢 誠	Nigel Henry Collier	
	佐藤 寛子	照井 一成	根本 香絵	松本 啓史		
助手	市瀬 龍太郎	渡邊 曜大				

アーキテクチャ科学研究系

研究主幹：本位田 真一
（教授・兼務）

教授	淺野 正一郎	漆谷 重雄	佐藤 一郎	中島 震	橋爪 宏達	本位田 真一
	丸山 勝巳	三浦 謙一	山田 茂樹	米田 友洋		
助教授	阿部 俊二	計 宇生	福田 健介	細部 博史	松方 純	松本 尚
助手	上岡 英史	鯉渕 道紘	日高 宗一郎	鷲崎 弘宜		

コンテンツ科学研究系

研究主幹：大山 敬三
（教授・兼務）

教授	相澤 彰子	安達 淳	大山 敬三	佐藤 真一	杉本 晃宏	高須 淳宏
	高野 明彦	山田 誠二				
助教授	相原 健郎	片山 紀生	北本 朝展	児玉 和也	Frederic Andres	
	Helmut Prendinger					
助手	井上 雅史	江口 浩二	大向 一輝	加藤 弘之	佐藤 いまり	孟 洋

情報社会相関研究系

研究主幹：曽根原 登
（教授・兼務）

教授	新井 紀子	神門 典子	北岡 元	小山 照夫	曽根原 登	東倉 洋一
	根岸 正光	宮澤 彰				
助教授	岡田 仁志	後藤田 洋伸	柴山 盛生	孫 媛	西澤 正己	古山 宣洋
助手	植木 浩一郎	上田 昌史	古賀 崇			

リサーチグリッド研究開発センター

センター長：三浦 謙一
（教授・兼務）

連想情報学研究開発センター

センター長：高野 明彦
（教授・兼務）

戦略研究プロジェクト創成センター

センター長：東倉 洋一
（教授・兼務）

学術ネットワーク研究開発センター

センター長：山田 茂樹
（教授・兼務）

学術コンテンツサービス研究開発センター

センター長：武田 英明
（教授・兼務）

学術情報ネットワーク運営・連携本部

本部長：坂内 正夫（兼務）

学術コンテンツ運営・連携本部

本部長：坂内 正夫（兼務）

未来価値創発型情報学研究連合

連携研究部門

客員教授	岡村 久道	加藤 和彦	岸田 和明	岸本 光弘	白井 良明	菅原 秀明
	武市 正人	田中 譲	土屋 俊	中村 裕一	松岡 聡	山名 早人
客員助教授	千葉 滋	並木 美太郎	藤岡 淳	松井 知子	村尾 美緒	山岡 克式
	米田 進					
連携教授	東条 敏	中嶋 正之				
連携助教授	丹 康雄	村田 剛志				
客員教授（連携）	池内 克史	上田 和紀	喜連川 優	深澤 良彰		
客員助教授（連携）	井手 一郎	井上 智雄	影浦 峡	兼岩 憲	竹内 孔一	辻 慶太
	奈良 高明	野末 俊比古	藤野 貴之	吉岡 真治		
外国人研究員（客員教授）	Henri Angelino		Michael E. Houle			

大学院学生一覧

総合研究大学院大学 情報学専攻

（平成18年4月現在）

Austermann Anja	篠原　靖志	藤沢　仁子
荒木 次郎	島田　秋雄	HUDA MD.NURUL
ALEXANDER IMRE KOVACS	末永　俊一郎	船越　誠
Kanokwan Atchariyachanvanich	竹田　隆治	PLATON ERIC
KAFLE BED PRASAD	THEPPARIT BANDITWATTANAWONG	堀内　泰輔
川崎　直之	Trabzadeh Masoomeh	松井　正一
魏　琪	中島　慶人	Mannakkara Chammika
清見　礼	中村　高雄	山中　秀夫
小出　誠二	成瀬　一明	Ruangchaijatupon Nararat
佐々木　宏	沼　晃介	LE DUY DINH
佐野　雅則	藤澤　弘美子	王　玉馨

（以上五十音順）

連携大学院

（平成18年4月現在）

東京大学大学院情報理工学系研究科	石川　冬樹	東京大学大学院情報理工学系研究科	辰巳　正治
	Vu Quang Minh		土肥　拓生
	Eric Tschetter		中川　博之
	小山内　詔子		西村　康孝
	倉沢　央		藤原　史隆
	NGUYEN VU PHONG		松崎　和賢
	蒋　声宇		山岸　史典

（以上五十音順）

特別共同利用研究員

（平成18年4月現在）

東京大学大学院理学系研究科	浜地　慎一郎	北陸先端科学技術大学大学院知識科学研究科	平田　敏之
東京工業大学大学院総合理工学研究科	鈴木　聡	千葉大学大学院自然科学研究科	佐藤　功典
	間瀬　心博		望月　義彦

（以上五十音順）

※氏名掲載を了承した学生のみ掲載しています。

情報資料センター

情報資料センター

情報学分野の内外の学術雑誌を中心に、図書・雑誌等の資料を収集しており、情報学研究・教育用施設としての整備を進めています。

また、総合研究大学院大学大学院生の資料環境整備として、近隣である明治大学図書館と、大学院生の図書館利用に関して相互協定を結んでいます。

■蔵書冊数・雑誌タイトル数(平成18年3月末)

資料種別	図書(冊)	製本雑誌(冊)	雑誌(タイトル数)
国内資料	8,189	8,728	211
国外資料	7,722	4,185	270
計	15,911	12,913	481

■主要なオンラインジャーナル・データベース等

	サービス名称	出版社
1	ACM Digital Library	ACM
2	MathSciNet	AMS
3	ASPP	IEEE
4	e-Proceedings	IEEE Computer Society
5	COMSOC DL	IEEE Communications Society
6	Wiley Interscience	John Wiley & Sons.
7	CUP online	Cambridge University Press
8	OUP online	Oxford University Press
9	Springer Link	Springer
10	Science Direct	Elsevier B.V.

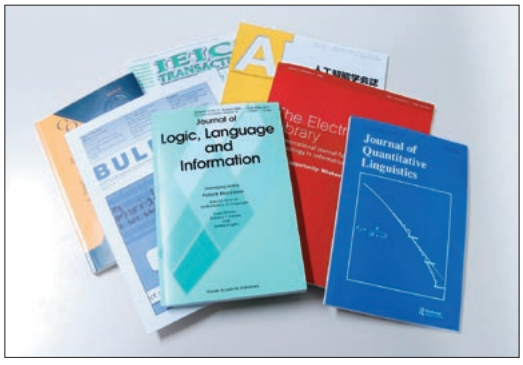
■施設・設備

	図書閲覧室	書庫
面　積	180m^2	271m^2
閲覧席	8席	3席
検索用PC	2台	1台
その他設備	自動貸出返却装置 (住友3M社製ABC-III)	マイクロリーダープリンタ (ミノルタ社製SP7000)
	複写機 (富士ゼロックス社製ApeosPort C5540I)	

閲覧室風景1

閲覧室風景2

書庫



購読中雑誌

施設・所在地

学術総合センター

学術総合センターは、我が国の学術研究基盤の充実強化を図るため、情報学等の研究、学術の交流、学術情報の発信、社会との連携の拠点施設として建設され、平成11年12月に竣工しました。高層棟は、国立情報学研究所をはじめ、一橋大学大学院国際企業戦略研究科、独立行政法人 国立大学財務・経営センター（一部）等の機関が入居し、各機関が有する学術に関する諸機能を総合的に発揮することにより、高度の知的創造拠点の形成を目指しています。また、低層棟は、一橋記念講堂などの会議施設となっており、国立大学法人等による国際会議や学会、講演会等に幅広く対応しています。

学術総合センター

一橋記念講堂

国立情報学研究所 National Institute of Informatics

http://www.nii.ac.jp/

〒101-8430
東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター内
TEL.03-4212-2000（代表）

土地面積： 6,842m²（うち国立情報学研究所： 3,036m²）
建物面積：40,418m²（うち国立情報学研究所：17,938m²）

グリッド研究開発推進拠点

グリッド研究を推進するため、学術総合センターに近接するビルに拠点となる場所を設け、リサーチグリッド研究開発センターを置き、産学官の協力体制の強化を図りました。

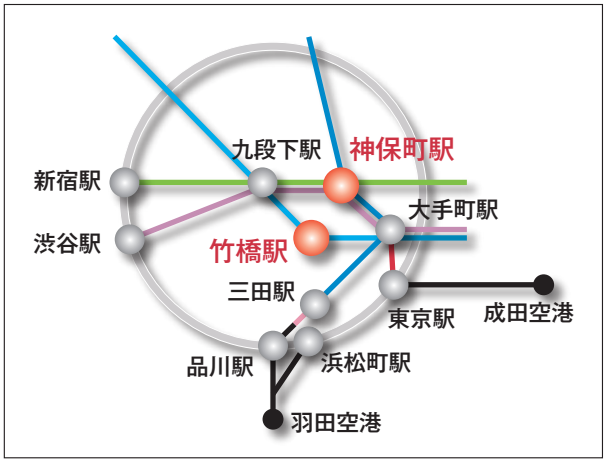
グリッド研究開発推進拠点 Center for Grid Research and Development

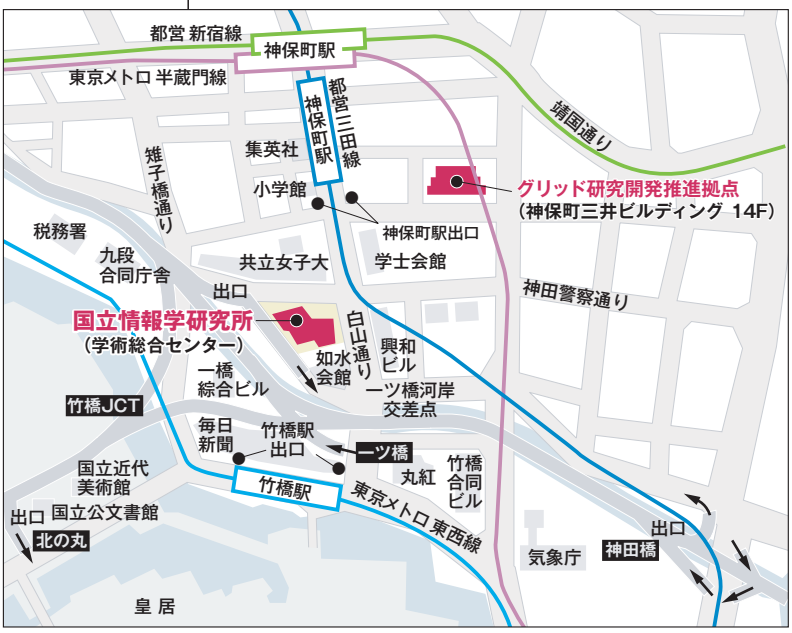
http://www.naregi.org/

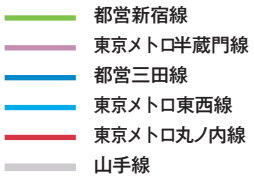
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1丁目105番地 神保町三井ビルディング 14F
TEL.03-4212-2857

■案内図

■路線図







施設・所在地

千葉分館（千葉市稲毛区）

学術情報システムの運用や各種学術情報サービスの提供を行う計算機システム及び学術情報ネットワーク関連の機器類を配置する電子計算機棟として、国立大学法人東京大学生産技術研究所千葉実験所の敷地内に建設され、平成6年11月に竣工しました。

千葉分館 Chiba Annex

〒263-0022
千葉県千葉市稲毛区弥生町1-8
TEL.043-285-4911（代表）

■案内図

土地面積(借用分)：**1,782m²**
建物面積　　：**3,943m²**

国際高等セミナーハウス（長野県軽井沢町）

国際的な研究交流の場として、長野県軽井沢町に建設され、平成9年3月に竣工しました。国際会議、各種セミナー、研修等に使用することを目的として、セミナー室(46人収容)や宿泊室等を設けており、国立情報学研究所はもとより、大学共同利用機関法人の施設として、広く大学法人等の利用に供しています。

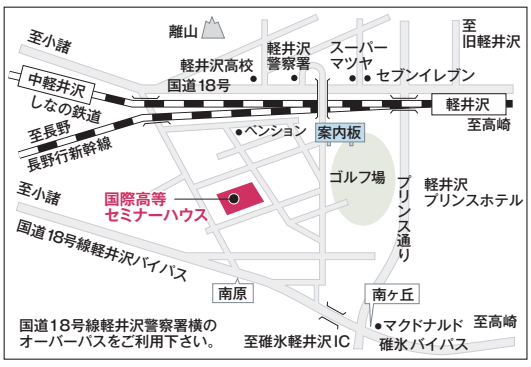
国際高等セミナーハウスにおけるセミナー

国際高等セミナーハウス
International Seminar House for Advanced Studies
Inose Lodge

http://www.nii.ac.jp/introduce/seminar1_j.shtml

〒389-0111
長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字長倉住還南原1052-471
TEL.0267-41-1083　FAX.0267-41-1075

■案内図



土地面積：3,339m²
建物面積：　667m²

問合せ先／会計課司計係
TEL 03-4212-2060

National Institute of Informatics

NII

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所